

N24
74(1)1

幼児の教育



358-117

1

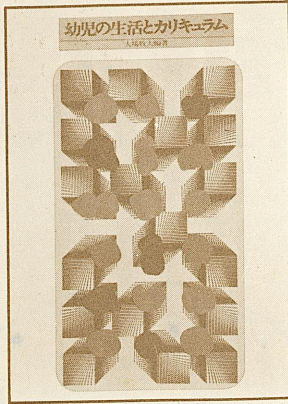
最新刊

幼児の生活とカリキュラム

大場 牧夫 著

B5判 188頁・1600円

どうしたら適切なカリキュラム編成ができるか。幼児への生きた働きかけをするには、どんな準備が必要か。遊び、生活と仕事、課題活動を保育の基礎におく。一幼稚園の実践を通じ、集団における幼児の成長、発達をとらえる。



新しくなりました

幼稚園参考書

—その教育と運営—

東京都私立幼稚園協会編集

日本私立幼稚園連合会刊行

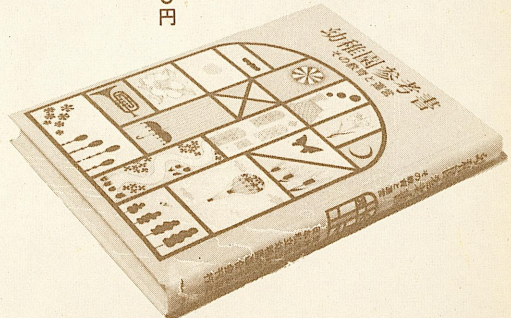
B5判 440頁・上製本 3800円

新時代の進展に即応した
新構想の「幼稚園参考書」
が誕生しました。

●本書は、昭和36年旧版刊行以来、新たに編集・執筆され、教育の実践現場から生まれた労作であります。

●内容は、主として教育計画編・領域別指導編・管理運営編と大きく分け、幼稚園教育の目的を人間形成の立場からとらえています。

●さらに、世界各国の保育制度と現状、文部省の七か年計画概要・中教審への諮問など、今日的貴重な資料も収録しています。



くわしくは、フレーベル館代理店・支社・支店・営業所、または本社営業課 (03) 292-7781(代) にお問い合わせください。

フレーベル館

幼児の教育

第七十四卷 第一号





幼児の教育 目次

——第七十四卷 一月号——

表紙 三好碩哉
カット 中島英子

萩の露……………千谷七郎…(4)

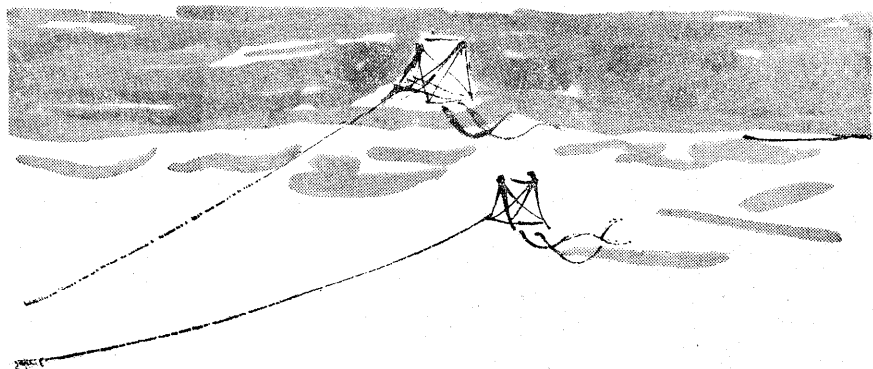
幼稚園の保育内容における

自由遊びの変遷(Ⅲ)……………西本脩…(8)

楽しく、かつきびしい教育学

——倉橋惣三先生にまなぶ——……………宮坂広作…(16)

©1975
日本幼稚園協会



日本の保育とエ・エル・ハウ女史……………高野勝夫…(22)

幼児のお弁当……………小林トミ…(27)

心理療法と幼児教育のかかわり……………佐藤文子…(32)

落とし穴としての

「発達段階に応じた指導」……………南館忠智…(38)

母と娘のヨーロッパ……………河井多喜子…(45)

祥子

きき手 周郷 博

萩の露

雨の多い年だった。そのために夏季の湯水もなくて慈雨だったわけであるが、庭の百日紅は咲き遅れた。七、八、九の夏の三ヶ月を紫紅の花を保ちつつづけるので、百日紅の名があると聞いて以来、なるほどと感じつつ毎夏を過して来たものであったが、この年はそうは行かなかつた。七月はおろか、八月になつても開かず、天気の良い日は数えるほどしかなかつた。それは自分の家の庭ばかりでなく、いつも見事な花を楽しませてくれる近所の家のもそうであつた。やつと八月の終り頃になつて、申訳なさそうに一枝か二枝の梢の先がふくらみ始めたので、それから書齋の雨戸を明ける度に、何かいたわるような気持ちで梢を捜す毎朝だつた。

老人の日の連休の朝もやはり雨だつた。雨戸を明けた瞬間に、この朝は百日紅の梢に目をやるより先に、花はまだ開かぬままに

千 谷 七 郎



縁側に頸をすり寄せる如く揺れる白萩の葉の露が、雨の薄明に柔らかくて深い光をきらめかせているのが目に入った。揺れる度に反射の光芒が織りなす模様は、咲きこぼれる白萩の花さながらでもあり、珠玉を散りばめてもこれに及ぶまいと思われるぐらいで、清楚せいそそのものであつた。敷島の大和心を人間わば、かそけく揺れる萩の露、とでも詠み変えて見たい思いもしているうちに、ひらめくように其角の一句が思い出されると一緒に、その意味が初めて心にしみ通つた。

萩のつゆはまぐり貝にくすり哉 其角

というのがその句である。さっそく縁側から引き返して書架の其角句集の一つを繙ひもといた。其角の父東順は江戸で医を業としていたが、既に六十歳のはじめに医業を離れて、もっぱら筆を楽しみにして俳諧の友となつていた。元禄六年（一六九三年）八月二十八

日七十二歳で他界したのだが、七月の「秋の初めより、老父いたく悩つきて、けふしらず、明日またたよりなし。一家合信のおもひ、我身ひとつにせまりて、万事たゞゆめうつゝ成なぐさめ也。

医療、薬力ともにつきて、ねぶれるやうに、かのむかへこそまてと、此世におもひ残せるさま露なし」というのが、病床の老父の容態と心境、それに回復を祈る一家の願いを其角自身が父追悼句集『秋の露』に述懐するところである。その頃其角の妹が老父平癒の願を薬師如来にかけたなどのことがあって、そのついでに其角が書いて「父のふしける蚊屋の中にはりて、目ざまし草にと」慰めたのが上述の一句であった。

このところ一滴のくすりものどを通らぬ老父の容態である。あの清らかに澄み切った秋の露でこそ、はまぐり貝に収めた練ぐすりをとかしてくすりにすれば、さぞ験もあるのではなからうかという句の心であろう。そういう思いで書いて臥床の蚊帳の中にはったところ、「此日より不可思議の感応ありて、……いさゝかの食事も、十が一つは胸膈にかよいて」容態をもちなおすことができ、やがて八月十五日の名月を迎えた。

その間、幼少から信濃にやられて、やはり医を業としていた弟玄適が六月の初めから八月のはじめまで、看病むつまじく、枕のちりを掃っていたのにも、病父はみずから待期のさかずきを取っ

て「愛別の情欲なお後の世のまよひなれば、我息のかよはん所を厭離せよ」と思い切った暇乞いを与えたのも旬日前のこと、それからやがて今宵の名月に、其角がこの父のいさぎよさを「受持法華の正眼たるべし」と思い起こして、法華経薬王菩薩品の仏座の高さ七多羅樹とあるにちなんで、父のために蚊帳を上げて月の秋空を案内する気持ちで

空や秋蚊屋をあぐれば七多羅樹

と書けば、老父東順は

月にかがやく五色の雲

と、ふるえる病手をととのえながら書くうちに、此息のかよわんうちに、とすめる筆のかずかずの中に、「七十三歳の老医、みづから何の薬をかたのまんやと杜子美のもとむる所をも求め」なかつた。（杜甫は成都の草堂で「江村」の詩に「多病須る所は唯薬物」と詠ったけれども、老父はそうではなくて）

「死病には千ぐさの露の験もなし 東順かくいさぎよき明らかになれば、死生在命富貴ねがひなし、良夜千金の期也」というわけで、この名月の夜に一樽の酒を求め、父の望むままに友を招いて対酌の間の句々がおのずから即興となったという。「死生は命に在り、富貴ねがひなし」。私どもが現代の多忙に追われて、長い間忘れていた言葉ではなかつたか。なんと腹の底までしみ通る言

葉であることか。芭蕉の稿に成る『東順伝』に、「ことし七十歳ふたとせの秋の月を、病める枕のうへに詠めて、花鳥の情、露を悲しめる思ひ、限りの床のほとりまで、神みだれず」としるさるであるのもなるほどとうなずかれる。

それにしても其角には七年前に他界した母の^{おちかひ}の去り難いにつけても、父のその思いをもおしはかり、更にまた、この月に先ほど信濃に帰って行った弟の^{おちかひ}の^{おちかひ}を見てわれとわが心さぐさめかねて

信濃にも老が子はありけふの月 其角

と、書きつゞけて、共に信濃に思いをさせているだろう父の心に寄せて差し出せば

子と姨とたがかへて見んけふの月 東順

と書いたのが父の書きおさめであった。

この句の傍にある更級の^{おぼすてま}姨捨山の物語は、既に『古今集』による人知らずの古歌もあり、詳しくは十世紀に成ると伝えられる『大和物語』に伝えられ、『今昔物語』にも引きつがれ、芭蕉の『更科紀行』にも詠うたわれるといった工合に、非常に古い昔から代わが国民の心のあるいは打ち、あるいはいましめるように伝統していたものであった。よく知られている通り、信濃の更級に住んでいた男が、若い時に母親が亡くなって、伯母を親代りにして

仲むつまじく暮らしていたが、妻の心がよくなかった。姑が年をとるにつれて腰が曲って行く醜さを見て、この嫁はますます厄介がって、とうとう夫に「連れ出して、深い山の中にでも捨てて来てくれ」とばかりに言い立てて、夫をせめたてた。とうとう満月の夜、男は「寺で有難い法ほうふ会があるから、見せて上げましょう」と^{おちかひ}姨をだまして、下りて来られそうもない高い山において逃げて帰った。

さて、男は家に帰って見るに、長年、親のように自分を養育してくれて一緒に生きて来た日々がどっと思ひ出されて悲しくなっているところに、この山の上からこの上もなく澄み切って明るい月が上って来たのをながめて一夜眠れず、悲しみをおさえ切れな^いいで次の歌をよんだ。

わが心なくさめかねつ更級や姨捨山に照る月をみて

こうよんで、あくる朝迎えに行つて連れ帰ったということである。そして『大和物語』は、このことから後、この更級の山を姨捨山というようになったし、姨捨山を慰め難いことの縁語に言うようになった、とつけ加えている。親子の情、人情の押え難さを言ったのであろう。

姨捨山をこのように顧みて、あらためて其角東順の応答の句を味わえば、いさぎよい離別わかの際ときの父と子に迫る情こころの馥郁ふよくたる余香

が千古万古に漂う思いがする。其角は三十三歳であった。

芭蕉は貞享五年（同年九月三十日元禄と改元）八月中旬、信州

更科の名月を見るために越人を伴なって木曾路を上った。その

『更科姨捨月之辨』に「……その夜（名月の夜）さらしなの里に
いたる。山は八幡といふさとより一里ばかり南に、西南によこを

りふして、冷じう高くもあらず、かどかどしき岩なども見えず、

只哀ふかき山のすがたなり。なぐさめかねしと云けむも理りしら
れて、そぞろかなしきに、何ゆゑにか老たる人をすてたらむとお
もふに、いとゞ涙落そひければ、

佛は姨ひとりなく月の友　ばせを

と書きつけている。姨捨山の月を見ていと、ひとり泣いている
姨の佛が目に浮んで来る。この佛を今宵の月見の友にしよう、と
いう意であろう。後に元禄五年刊の其角『雑談集』に「翁北国行
脚のころ、さらしなの三句を書とめ、いづれかと申されしに、佛
や……といふ句を可然と定たり、と申ければ、（翁は）誠しか也。

一句人目にはたゞず侍れとも、其夜の月の天心にいたる所、人の
しる事少なり、と悦び申されけり」と書いている。「其夜の月の天
心にいたる所」とは、更科の男が夜一夜眠れぬままにながめた所
でもあった。前に引用した芭蕉稿の『東順伝』の箇所につづいて
「……限りの床のほとりまで、神みだれず。終にさらしなの句を

かたみとして、大乘妙典のうてなに隠る」と追悼しているのも、
本当にそうだっただろうとうなずかれる。

八月十五日のこの夜の前後数日、病父の容態もやや持ち直して

いたのだろう。八月十八日の夜、其角は岡丈等と歌仙を巻いている
「病父、心よしと聞えけるに、とみのいとまたまはりて、浅草寺
に詣ける。誘引の人々、泉陵院に立よりて月見しければ、即興」
として、

寺の月葡萄膾は葉にもらん　其角

と、渋い発句を出している。

しかし、八月二十八日、東順は遂に薨じた。そして翌「八月二

十九日の昼、亡父葬送の場にて、崩心の悲を懐きて、四生の起別
をしる」と詞書きして

一歛に蟬も木葉も脱哉　晋子

とある。

わが元禄の頃には、こんな父と子があつた。

老人の日の雨の朝、庭前の秋の露に誘われて、こんな一日を書
齋で過した。「死生在命、富貴ねがひなし」と、久しぶりに清涼の
氣に洗われた有難い老人の日であった。今はもう秋の花もあらか
た散つて、黄菊、白菊がふくらんで来た。やはり雨の日の多い年
のようだ。来年の天候はどんなだろうか。（東京女子医科大学）

幼稚園の保育内容における

自由遊びの変遷(Ⅲ)



西本 脩

第四期(充実期)の幼稚園における自由遊び

昭和二十年(一九四五年)八月十五日、わが国は遂に連合軍に無条件降伏をし、アメリカ・ソ連・イギリス・中国など、連合国の代表が集まって決めたポツダム宣言を受諾することになった。これに伴って、連合軍の総司令官マッカーサー元帥に率いられた

軍隊が日本本土に進駐してきた。そして、軍国主義の排除・戦争犯罪人の処罰・連合国による占領・領土の制限・日本の徹底的民主化など、ポツダム宣言で決められた降伏条件をどしどし実行した。戦争を推進した人々は、軍人も政治家も役人も資本家も、あるいは学者も、すべて公職から追放され、おも立った人は戦争犯

罪人としてさばかれた。今まで国民をおびやかしていた言論や政治活動を取り締まる法律もすべて取り除かれ、言論・集会・結社が自由になり、国民の基本的人權を尊重する建て前が打ち出されてきた。こうして、わが国は連合国の監視のもとで、民主国家の建設を進めていった。

昭和二十一年(一九四六年)十一月三日、民主主義に基づいた新憲法が公布された。これによって、国民が政治の主権を持ち、その意見を代表して政治を行う国会が、国の最高機関として認められることになった。また、軍備を持たず戦争をせず、男女が平等であることなどを明らかにした。そして、婦人にも初めて選挙権が与えられた。

経済の面でも、大資本家が資本を独占して、国の経済を左右するような力を持つことを取り除くようにした。農村でも、地主がたくさんの土地を持って小作人に耕作させていたのをやめさせ、働く農民は皆自分の土地を耕すことができるようにした。労働組合もどんどん作られ、団結やストライキの権利も認められた。

教育のうえでも、昭和二十一年三月、連合軍総司令部の要請で来日したアメリカ教育使節団の勧告をもとに、昭和二十二年（一九四七年）三月には「教育基本法」や「学校教育法」がつくられ、六・三・三・四制の新学校制度と、満六歳から十五歳までの義務教育の延長が行われ、男女共学も実施されるようになった。また、中央集権的、官僚的であった教育行政を改め、教育行政の民主化、その地方分権、その一般行政からの独立の確保をもとにした教育委員会などを設けたりした。

このような教育改革は幼稚園教育についても行われ、幼稚園は新しい「学校教育法」により、学校の一種として、すなわち正規の学校教育の系統の出発点として、はっきりした位置を認められることになった。そして、幼稚園は従来考えられていたような家庭教育の単なる補助機関ではなく、小学校入学前の幼児期に対する、それ自身としての独自の役割と使命をもった教育機関であることを明確にするために、従来の「幼稚園令」第一条にあった

「幼稚園ハ幼児ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ発達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補助スルヲ以テ目的トス」の「家庭教育ヲ補助」という字句が除かれ、「学校教育法」第七十七条では「幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」と幼稚園教育の目的を規定し、この一般的な目的を実現するための目標として、同法第七十八条では次の五項目を示している。

- 一、健康、安全で幸福な生活のために必要な日常の習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 二、園内において集団生活を経験させ、喜んでこれに参加する態度と協同、自主及び自律の精神の芽生えを養うこと。
- 三、身の社会生活及び事象に対する正しい理解と態度の芽生えを養うこと。
- 四、言語の使い方を正しく導き、童話、絵本等に対する興味を養うこと。
- 五、音楽、遊戯、絵画その他の方法により、創作的表現に対する興味を養うこと。

「保育要領」における自由遊び

「学校教育法」および「学校教育法施行規則」の制定によって、

幼稚園教育の目的および目標が示されるとともに、これらを達成するため「幼稚園の保育内容に関する事項は、前二条の規定に従い、監督庁が、これを定める。」(学校教育法第七十九条)こと、および「保育日数及び保育時数は、保育要領の基準により、園長が、これを定める。」(学校教育法施行規則第七十六条)こととされた。これらの規定に基づいて、幼稚園の保育内容の基準が、昭和二十三年(一九四八年)二月に、「保育要領——幼児教育の手びき——」(文部省試案)として定められた。

「保育要領」では、幼児の保育内容を「楽しい幼児の経験」として、「見学、リズム、休息、自由遊び、音楽、お話、絵画、製作、自然観察、ごっこ遊び・劇遊び・人形芝居、健康保育、年中「行事」の十二項目をあげている。ここでは、従来の「保育項目」と比べて、幼稚園における幼児の経験の範囲を拡大し、「見学」や「健康保育」という新しい分野を設け、「自由遊び」「休息」「ごっこ遊び・劇遊び・人形芝居」「年中行事」などを独立した保育内容にしたりして、幼児の全生活にわたる計画的な指導をねらうようになった。

また「幼稚園における幼児の生活は自由な遊びを主とするから、一日を特定の作業や活動の時間に細かく分けて日課を決めることは望ましくない。一日を自由に過ごして、思うままに楽しく

活動できることが望ましい。……幼稚園の毎日の日課はわくの中にはめるべきでなく、幼児の生活に応じて日課を作るようにすべきである。」と述べて、「子供たちの自発的な意志にもとづいて、自由にいろいろな道具やおもちゃを使って生き生きと遊ばれる」「自由遊びを、幼稚園の一日の保育の中で重視している。そして、「そこでは(自由遊びでは)活ばつな遊びのうち、自然にいろいろの経験が積まれ、話し合いによって観察も深められ、くふうや創造が営まれる。また自分の意志によって好きな遊びを選択し、自分で責任を持って行動することを学ぶ。子供、どうしの自由な結合からは、友愛と協力が生まれる。」と、自由遊びの教育的意義を評価している。

また「幼児を一室に集め、一律に同じことをさせるより、なるべくおのおの幼児の興味や能力に応じて、自らの選択に任せて自由に遊ぶようにしたいものである。興味のないことがらを教師が強制することは好ましくない。自己表現・自発活動を重んじ、草花の栽培・動物の飼育やそうじの手伝い等を楽しむ習慣をつけなければならぬ。」として、自由保育の指導形態を勧めている。そして、幼児がこのように楽しい自由な活動をするために、幼稚園では「幼児が思う存分全身を動かして愉快に遊び、のびのびした精神と身体を養成することができるように、十分な設備を整え

ておく必要」があり、教師は、幼児の自由な活動の間に「幼児のひとりびとりに注意を向けて、必要な示唆を与え、個々に適切な指導をし、身体的にも、知的、感情的にも、社会的にも、適当な発達をはからなければならない。」としている。

旧「幼稚園教育要領」における自由遊び

昭和二十六年（一九五一年）九月、サンフランシスコ講和条約が結ばれるとともに、わが国の独立回復をきっかけとして、教育界でも全面的にこれまでのあり方について再検討する気運が高まってきた。幼稚園の保育内容についても、「保育要領」を実施した経験やその後の研究結果などから改善が要望されるようになった。

一方、このころから戦後のベビーブームの影響と一般社会の幼児教育に対する認識の高まりから、幼稚園に入園を希望する幼児が急激に増加してきたため、新たに幼稚園を設置しようとする者が多くなってきた。しかし、幼稚園の設置に必要な基準が明確でなかったため、設置基準の制定が望まれた。昭和二十七年（一九五二年）五月に文部省は、取りあえず次官通達をもって「幼稚園基準」を示した。この中で「幼稚園の教育課程は、文部省の編集に係る幼稚園教育要領を基準とする。」とし、備考として「教育

課程中『幼稚園教育要領』とあるは、幼稚園教育要領が刊行されるまで『保育要領』をもってこれにかえるものとする。」という但し書を含えた。

また、昭和二十八年（一九五三年）十一月には「学校教育法施行規則」の一部改正が行われ、第七十六条の中の「保育要領」を「幼稚園教育要領」に改められた。そして、昭和三十一年（一九五六年）二月、「幼稚園教育要領」が作成された。

「保育要領」において示された保育内容の十二の項目は、幼児の活動や経験をただら列した観があつて、その内容区分も統一した考え方が明らかでないうらみがあつたため、幼稚園教育要領では、幼稚園教育の内容をその目的および目標にしたがつて、「健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作」の六つの領域に区分して示している。

「保育要領」において重視されていた「自由遊び」の項目がここではなくなつた。しかし、保育要領では触れていなかった、幼稚園教育の目的や目標を実現するための「指導計画の作成とその運営」について詳しい説明がされており、その中の「日単位の指導計画」の項で、「自由遊びの時間と、学級としてまとまつて活動する時間とのバランスを適切にする。学級としてまとまつて活動する場合にも、できるだけ、幼児がのびのびと活動できるように

な機会を多くする。」と、日案を作成する際に自由遊びについて留意するよう述べられている。

現行「幼稚園教育要領」における自由遊び

更に昭和三十九年（一九六四年）三月には、それまでの経験や研究の結果を生かして、より一層幼稚園教育課程の編成や指導計画の作成を適切にするために、幼稚園教育要領の改訂が行われた。また、これに伴って「学校教育法施行規則」の一部改正を行い、「幼稚園の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準として文部大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。」（同施行規則第七十六条）と規定し、改訂された幼稚園教育要領に国家基準の性格を持たせた。これが現行の「幼稚園教育要領」である。

この中には、旧幼稚園教育要領に残っていた「自由遊び」という名称は全く見られないが、「指導上の一般的留意事項(8)」のところに次のような表現がある。

「遊びの指導にあたっては、いろいろな形態や様式の遊びを経験させ、さらにそれを適切に発展させるようにし、幼児が喜んで遊びに集中し、個性をのびのびと発揮できるようにするとともに、経験を広めたり、創意をはたらかせたり、好ましい人間

関係をつくったり、心情を深めたりすることができるようにすること。」

とあり、また同じ一般的留意事項の(9)には、

「幼児がみずから選んで行う経験や活動の指導にあたっては、幼児の興味や欲求をじゅうぶん満足させるようにし、必要に応じては教師も参加したり援助したりして、その経験や活動が効果的に発展するように配慮すること。また、グループで行う経験や活動の指導にあたっては、グループの一員として安定感をもって相互に力を合わせるとともに、個々の幼児の興味や欲求に留意しながら、必要によっては教師も参加して、その経験や活動が効果的に発展するように配慮すること。さらに学級全体で行う経験や活動を指導するにあたっては、望ましい共通の経験をもたせるとともに、個々の幼児の興味や欲求にも注意して、いずれの幼児もそれに喜んで参加できるように適切に配慮すること。」

とあり、「幼児がみずから選んで行う経験や活動」という表現を用いて、「グループで行う経験や活動」や「学級全体で行う経験や活動」と区別している。しかし、これは幼稚園で幼児が実際に経験や活動をするときの仕方を、「ひとりで・グループで・学級全体で」という三つの類型に分けたものであって、幼児に経験や

活動を行わせる教師の立場からいえば、指導の形態とみることもできる。したがって、ここでいう「幼児がみずから選んで行う経験や活動」は、幼児が、みずから選んでひとり、で行う経験や活動のことであり、従来の「一斉保育」や「設定保育」と対照的にとらえる「自由遊び」の概念とは発想が異なるのである。

結 語

明治九年十一月、東京女子師範学校に附属幼稚園が創設されて以来、今日まで一世紀近くなるが、その間、わが国の幼稚園教育は時代の推移に伴って幾多の変遷を経てきた。幼稚園の保育内容や指導方法の面についても例外ではなかった。ここでは、保育内容としての「自由遊び」がどのような移り変わりを経て今日に至ったか、その変化の跡を振り返ってみた。その結果を要約すれば、次のようになるだろう。

一、創設期

1 明治の初期においては、東京女子師範学校附属幼稚園が他の幼稚園の模範とされたが、そこで行われた保育内容と方法はフレールベルの教育法によるもので、恩物を中心をなしていた。一日の保育時間は四時間で、小学校の授業時間割のように、二十分ない

し三十分ごとに区切って保育科目の指導を行っていた。午前と午後それぞれ「戸外遊」という自由遊びの時間が設けられていたが、これは休憩時間的な性格のものであった。

2 明治十四年六月の保育科目改正にあたっては、「室外ニ於ケル随意ナ遊嬉」すなわち自由遊びの重要性が「保育ノ要旨」で強調された。

3 明治十二年四月に設立された鹿児島幼稚園では、体操・遊戯が重んじられ、「自由遊戯」の時間が毎日三十分間ずつ設けられた。

4 明治十二年五月に開設された大阪府立模範幼稚園では、月曜日から金曜日まで毎日一時間ずつ「自由遊」の時間が設けられていた。

5 明治十三年六月に開設された愛珠幼稚園（大阪）では、土曜日を除く毎日、午後に一時間「自由遊」の時間を設けていた。

二、基礎確立期

1 明治三十二年六月に初めて幼稚園関係の法令「幼稚園保育及設備規程」が制定され、保育内容として、遊嬉・唱歌・談話・手技のいわゆる「保育四項目」が定められた。その一つである遊嬉は随意遊嬉と共同遊嬉とに分けられたが、前者は自由遊びのこと

であった。

2 明治三十三年八月、「小学校令」が改正され、その施行規則が制定されるに及んで、前記の「幼稚園保育及設備規程」はほとんどそのまま、その中に組み入れられた。

3 明治三十九年四月に定められた「女子高等師範学校附属幼稚園保育要項」では、保育四項目のうち「遊嬉」を重視し、一日の保育時間の四分の三をこれにあてた。また、「随意遊嬉」すなわち自由遊びの教育的意義を認め、これを特に重視した。

4 明治四十年前後からは、欧米の新しい教育理念が導入されて従来の保育法への批判となり、いわゆる自由保育・統合主義保育となって幼稚園教育界へはいつてきた。

5 明治四十四年七月には、「小学校令」および「小学校令施行規則」が改正され、従来の保育項目の規定が削られた。これにより大正時代の保育内容は「遊戯」ことに「自由遊び」や「ごっこ遊び」に重点をおく傾向が強まった。

三、発展変動期

1 幼稚園単独の勅令「幼稚園令」および「幼稚園令施行規則」(文部省令)が公布された大正十五年四月からは、保育内容として、以前の保育四項目のほかに新たに「観察」と「等」が加えら

れ、「保育五項目」以外の保育活動も適当に行なってもよい、ある程度ゆとりのある保育内容が教師独自の判断で行えるようになった。

2 形式的な恩物主義や注入主義の保育に対する批判として、倉橋惣三氏らの「誘導保育」の運動が広まり、自由主義的・生活主義的、児童中心主義的な「自由遊び」を基本とする保育が盛んになった。

3 昭和十年前後から、わが国はだんだん戦時態勢にはいつていき、幼稚園もその影響を受けて戦時色が濃くなったが、小学校(国民学校)以上の学校教育に比べると、その影響は比較的少なく、自由な空気は残っていたようである。

四、充実期

1 昭和二十二年三月および同年五月に、「学校教育法」と「学校教育法施行規則」が定められて、幼稚園は新たに「学校」として発足した。これに伴って、その目的・目標も家庭教育の補助的な役割ということから、幼児を対象とする学校教育としての使命を果たすように改められた。

2 昭和二十三年二月、学校教育法および同法施行規則の規定に基づいて、文部省から「保育要領」が出された。ここでは、保育

内容を「楽しい幼児の経験」として、「自由遊び」を含む十二項目に分けた。そして、なかでも「自由遊び」を重視し、自由保育の保育形態を基調とした。

3 「保育要領」全体を通して流れている幼児中心主義・自由主義保育・個性主義保育について、その後さまざまな批判がなされ改善が要望されるようになり、昭和三十一年二月には「幼稚園教育要領」が作成された。ここでは、保育内容は健康・社会・自然・言語・音楽リズム・絵画製作の六領域にまとめられ、「保育要領」では重視されていた「自由遊び」の項目がなくなった。

4 更に昭和三十九年に改訂された現行の「幼稚園教育要領」では、「自由遊び」という名称が全く影をひそめたが、それとともに、国家基準として全体に自由な空気が希薄になり、統制的・画一的・一斉指導的なおいが濃くなってきたように思えるが、これは保育方法や保育形態のあり方とも密接に関連する事柄で、今後のわが国の幼児教育全体の進歩発展のためにも一考を要する問題であろう。

参考文献

倉橋惣三・新庄よしこ共著「日本幼稚園史」フレールベル館 昭和三十一年

津守 真・久保いと・本田和子共著「幼稚園の歴史」厚生閣

昭和三十四年

小川正通著「世界の幼児教育」明治図書 昭和四十一年

日本保育学会編「日本幼児保育史」(第一巻・第二巻・第三巻・第四巻)フレールベル館 昭和四十三年—四十六年

文部省編「幼稚園教育九十年史」ひかりのくに昭和出版 昭和

四十四年

基督教保育連盟編「日本キリスト教保育八十年史」基督教保育

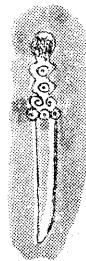
連盟 昭和四十一年

(大阪樟蔭女子大学)

楽しく、かつきびしい教育学

— 倉橋惣三先生にまなぶ —

宮 坂 広 作



教育を楽しむ

わたくしの教師生活ももう二十年になる。ふりだしは東京のあるミッション・スクールの中学校で、社会科の非常勤講師になったときである。生徒たちは中産階級の子弟で、明るく温良な子どもたちであったし、教師も親切な人たちだった。初めての教師生活をこういう恵まれた環境で経験したことは、わたくしの大きなしあわせであった。しかし、大学をおえたばかりの新米教師であったわたくしは、周囲に目をくはる余裕もなく、与えられた教材を生徒にわかりやすくつたえるにはどうしたらいいかということばかり考えていた。教室で問答をこころみたり、テストを

課したりして、こちらの教えようとしたことを生徒たちがつかんでくれていると、ほんとうにうれしかった。しかし、日々緊張の連続で、教師であることは苦役に近かった。

そんなにまでして教職についていたのは、数ある職業の中で教職こそは人間的な生きかたを可能にするものであること、わたくしのような者はそれ以外の職にはむきそうもないという判断であった。しかし、いざ教師になってみると、教職に課せられた社会的責任の重さにくらべて、その負荷にたえられぬ己れの力量の不足に、みじめな、情ない思いを味わったのであった。

その後いくつかの学校を移り、研究者であると同時に教

師である、長い歳月を送ったのだが、いまだにわたくしは教育学の研究というしごとでも、教育者という面でも充足感を味わえずにいる。恥しいことおびたしい。しかし、わたくしの属する学部の高老教授で、むろん学問的業績も高く、学生諸君のめんどろをよくみることで定評のある先生が、さきごろ教授会で、「ほくはこの年になるまでことしの演習はうまくいったと思つたことはない」と述懐されたのはまことに意外であつた。

考えてみると、その先生もわたくしも、いまの日本の教育についてあきたりす思い、そういう教育のもとで育てられている日本の子どもたちの将来について、ふかく憂えていた点では共通している。なぜこのような危機的状況が生まれたか、問題解決のために何をなすべきかについては、教授とわたくしの見解は必ずしも一致しないだろうが、教育について考えるとき、悩みや憤りにまといつかれるという点ではまったく同じであろう。いきおい、わたくしの発言は、「批判」や「告発」や「論難」の傾向になる。倉橋惣三の書いたものには、人を刺すつげがない。批判はあつても非難はない。辛辣な内容があつかつていても、洒脱や軽妙が表現をやわらげる。それゆえ、批判された相

手が抵抗なく説得されてしまう。これはことばの技術でなく、語る者のところが聞き手のところを動かすのである。倉橋が教師の二類型について説明しているばあいの比喻（『秋の賦』第四卷）を借用すれば、倉橋は春型の長所を多くそなえた教育学者であつた。

講演者として、座談者としての倉橋の力量は伝説的である。こんにちその片鱗をうかがわせるのは、講演筆記（『幼稚園真諦』倉橋惣三選集第一卷、「保育案」、『幼稚園の新使命』「子供のうそ」『子供の臆病』以上第四卷）と、会話体の文章（『幼稚園雑草』第二卷、「幼稚園でしていること」第四卷）である。とくに「幼稚園でしていること」という五つの短編は、幼稚園について誤つた観念をもっている母親を、問答をつうじて啓蒙するというかたちをとっているが、対話者のあうんの呼吸はじつにみごとなものである。

さて、いずれの作品をとつてみても、子どもの自然状態は楽しく、愛らしいものとして描かれ、教師（保母）は子どもを楽しませ、満足させる者として期待されている。そして子どもたちと教師のうごきをじっと見まもり、時には子どもたちに語りかけ、遊びを共にする倉橋自身の姿があらわれてくる。『子供讃歌』（第四卷）は、まさに全編をつ

うじて、子どもの愛、子どもへの尊敬が語られ、しかもなおその愛の足りないこと、とうとぶ心の浅いのを、「いつも恥とする」ということばで文章が結ばれている。

倉橋は児童心理学を大学で専攻する以前、高校生時代にお茶の水の幼稚園へやっできて、子どもたちと一緒に遊んだ。すでに中学四年生ごろから「児童研究」誌を購読していたというから、「学問」の方が「子ども」より先行していたともいえるけれど、根っからの子ども好きだったのだ。一高の学生たちが、国家主義・軍国主義と立身出世主義の信奉から、個人の尊厳や文化・芸術の価値に目ざめていくのは、明治末年、日露戦争後のことである。明治三十六年に一高をおえた倉橋が、寮にいらがら「武道もせず、野球もせず、ストーム仲間にもはいらがら、ひまがあれば」幼稚園へ遊びに行つて、幼児の図画や手技などをもらつてきてはうれしがっているのを、同室の友人たちはよく笑つたけれど、柔弱としてさげすんだわけではないようだ。天下国家を論じて傍若無人の虚勢を張つたり、権力に接近することで自我の高揚をおぼえたりする青年たちとはまるっきりちがった性格であった。まことに倉橋はうまれながらの幼児教育者であり、幼児教育の研究に最適の資質の持ち

主であった。

「キンダー・ガルテンの名づけ親はフレーベルだけれども、フレーベルに幼稚園を創設させるものは幼児そのものだ」というのが、フレーベル主義の形式を墨守するふるい保育に訣別する根拠になった。目の前に生き、遊んでいる子どもから出発すべきであつて、古典の訓古注釈によつて教育実践が規定されるのではない。古典はすべからく「その教育精神と、その教育的直覚において」見なければならぬ。倉橋は、神秘主義哲学で粉飾されたフレーベルや、象徴主義的教育方法の教祖としてのフレーベルを信奉せず、「幼児たちの中に我を忘れて、遊びに没入したお爺さん」として、子どもの中に神性を見いだし、子どもたちが内部からつきうごかされて活動・発達することを認め、子どもの遊びと勤労の意義を強調した達識を評価する。倉橋はフレーベル主義の解釈に従事したのではなく、フレーベルのこころをつたえようとしたのであつた。「人間教育」は理であり、恩物は方法であつて、フレーベルの感情を表現する『母の歌と愛撫の歌』こそは最高傑作だというのが倉橋の評価であつた。「感情のみは永遠に古びない」がゆえにである。

倉橋惣三の著作に示された幼児教育の理と方法も、現代保育理論と技術からすれば、あるいはふるびたものが少なくないだろう。しかし、「自ら育つものを育たせようとする」育ての心の楽しさ、明るさ、温かさ、なんの強要もなく、無理もなく、育つものの偉おほきな力を信頼し、敬重して、その発達たつたの途に達たつつて発達を遂げしめようとする真情について書きとどめられたかすかすは、児童と教育とに対する根本の心もちがなにかを、時間を超えて教えている。その心もちは、『幼稚園雑草』冒頭のつぎのことばに集約されるといえよう。

「子供を楽しませるはよい事である。子供と共に楽しむのはさらによい事である。子供を上手に遊ばせ得る人はえらい人である。しかも子供と一緒に自分も愉快に楽しく遊び得る人は一層えらい人である」

「子供にとつてうれしいことは、我等がいかに立派な人間であるかよりも、我等をいかに彼等に与えてくれるかである。子供にとつてもっとも幸福な事も、教育にとつてもっとも肝心なことも、恐らくこれに他あるまい

教育者に求められるきびしさ

倉橋惣三の児童観は、フレーベルのそれと同じく絶対的楽観主義である。人間の中に、とくに児童のうちに神性があることを、ゆるがない信念としてもっていた。『幼稚園雑草』にはそのことを示す、美しくかつ嚴肅なことが記されている。たとえば、「人間の偉大さを」と題する断章では、

「人間の偉大さを知るもののみが、人間を教育することの偉大さを知り得る」

とあって、自分においてか、古今の偉人天才においてか、人間の偉大さを信じ、見出しえたひとは、人間の偉大さを事実によって証明されて、それによってたえず感激を与えられて、人間に対する信念をもって人間を教育することができるゆえに幸福だと述べている。偉人天才を目ざして子どもをこしらえあげるのではない。それでは「将来の効果性」において子どもを重要視する、功利主義的児童観に陥ってしまう。「この子供が偉大なものになることを信じて教育するのである」

教師は人間の可能性について、人間がこれまでなにをな

しえてきたかについて知らなければならぬ。日蓮やベーターンにおいて見している人間の偉大さへの敬畏で、子どもたちを積極的に見るのである。

倉橋はまた「一人の尊敬」についてしばしば書いている。ともすれば、子どもたちを一団あるいは一組としてひとからげにとらえてしまいやすい教師をいまして、ひとりひとりの人間としての尊敬をおかしてはならないというのである。「すべての人間は、その個性を尊重せられる権利をもつと共に、先ずその前に、一人として迎えられるべき尊敬をもっている」もとより倉橋は、幼稚園での教育を成功させる要件として、友だちの存在を、集団の教育的意義を評価していた。しかし、子どもをひとりひとりに活かしておくことの必要をくりかえし強調し、型にはめることの誤りを説いた。

さて、子どもの尊敬とその主体性を尊重するということは、子どもを甘やかし、子どもを放任することでは決してない。子どもをおどかし、恐れさせることの非は、すでに明治四十三年の「心理学通俗講話」で語っている。臆病を治すもっともいい方法は、子どもの自尊心に訴えることだともいっている。『幼稚園雑草』では「方法的実際問題」

として「容赦」について書いている。許可なくピアノをひいてはいけないと承知していながら、ピアノがどうしてもひきたくてひいた子どもを、教師が「黙ってニコリと初めから赦してやった」とき、子どもの心の中に「好意の感受性」が育つだろうというのである。これは、子どもの中にある人間性をみとめ、信ずる立場からの寛容である。罰よりも愛によって子どものおおらかな性格を育てようというのである。

罰を軽減することで相手に恩恵を感じさせようとする取り引きめいた容赦でなく、無条件の容赦こそ、「子供はホカリと間が抜けてそこに美しいある物が湧き出る」のであり、「叱られると思つて緊張していた心がフツとゆるむ時に、そこに何ともいえない美しさが湧き出る」というところに、大きな教育効果がうまれる。すべてのひとが自分に好意をもつてくれている。自分はふかい愛情につつまれているという安心感が、子どもの心にもうれしさを、ありがたさを育てる、というのである。倉橋は、ずるを出すくせのある子どもを前にして、うんと叱ろうと思いつつ、身が立ちすくむようになり、子どもの肩を抱いてすすり泣く先生を描きだしている。

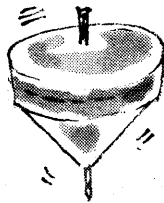
単なる放任なら泣くことはない。気が弱くて叱れないのでもない。愛情によってこの子の性格のひずみを矯めることができない己れの無刀を恥じ、嘆くころ、この子のひずみを憂え悲しむころの流露なのである。

子どもたちに対して無条件に寛容だった倉橋は、教師に對してきびしい要求を提出してはばからない。保育の専門家としての教師は、子どもの個性を発見し、それにもとづいて子どもを発達させ、生活を誘導する環境の与えかたと手腕とをもっていなければならない。教師の性格について、その思想について、健康・服装・ことば・事務能力等等について、倉橋は希望を語り、助言している。幼児の保育に全身全霊を傾けて生きる保育者像がそこには描き出される。しかもそれは献身とか犠牲を強いる聖職者としてではなく、子どもとの心の交流によってふかい慰安を与えられている、楽しさにあふれた婦人としてである。子どもたちをりっぱに育てることを通じて、自己をすぐれた人間として形成していくことに喜びを感じる人びととしてである。

戦争やいかなる時局からも、幼時教育の楽しい境地をまもりぬくということは、きびしい努力を必要としたはずで

ある。倉橋は、一方で時代のうごきを視野に収めつつ、譲ってはならないもの、時代を超える価値を固守しつつつけた。戦時下だからこそ、正月には子どもたちを楽しませるのが、戦時下に幼い子らの世界を護る者の任務だという決然たる態度は、倉橋の教育学が単に「春」型の楽しい教育学であるのみならず、同時に秋型のきびしさを秘めた外柔内剛の教育学だったことを示している。

(東京大学)





日本の保育とエ・エル・ハウ女史

高野勝夫

唯一の保育専門指導者

一八八六年（明一九）神戸基督教教会（現在の日本基督教団神戸教会）の進歩的な婦人会の有志の間に、キリスト教幼稚園設立の計画がたてられ、その要請に応じて献身したのは、エ・エル・ハウ女史（Miss Annie Lyon Howe）であった。女史は一八八七年（明二〇）末にアメリカン・ボードの教育宣教師として来日し、婦人会の幼稚園設立に参与した。

しかし、女史は日本の保育界の将来のために保育の養成がより急務であると信じ、幼稚園と同時に保育伝習所の創設に取り掛かった。そして、一八八九年（明二二）十月に頌栄保育伝習所を、続いて十一月に頌栄幼稚園を開設した。

女史は一八五二年アメリカ、マサチューセッツ州ボストン郊外ブルックラインに生まれ、両親は敬虔な開拓者であった。彼女は

一八六九年ロックフォード女子専門学校（Rockford Female Seminary）現在のロックフォード大学の二年間の音楽課程をおえ、さらに、一八七八年シカゴ・フレールベル協会保育伝習学校（Chicago Froebel Association-Kindergarten Training School）の二年間の課程を卒業した。

そして、卒業後、シカゴで実際に幼稚園教育に九カ年従事し、三十五歳のときに来日した。それから、一九二七年（昭二）に引退帰国するまで四十年間、その間二年半、一時退任帰国したが、生涯の大半を日本の保育のために献げたのであった。

以上のように、ハウ女史は保育と音楽の専門家で、しかも、理論と実際を兼ね備えた当時の日本として数少ない得難い指導者であった。その上に、女史は非常に創造性の豊かな、また実行力に富んだ人物であった。優れた卓見と構想をもって、積極的に保育と保育者養成に励んだ。

だから、日本の保育史、特にその初、中期におけるハウ女史の貢献には、まことに著しいものがあつた。その当時の日本の保育界では、女史ほど学識経験の豊かな有能な指導者は他に見当たらなかつた。唯一の専門指導者といつて差し支えがない。それだけに、その貢献は大きかつた。次に、女史の四つの貢献について、概略を述べてみよう。

保育者養成の先駆者

ハウ女史の創設した頌栄保母伝習所は、日本における最初の保育者養成機関ではなかつた。すでに、それに先立つこと十一年前に、一八七八年（明一一）に東京女子師範学校（現在のお茶の水女子大学）に保母練習科が付設されていた。

また、キリスト教主義の保育者養成機関としても、頌栄は最初のものではなかつた。一八八四年（明一七）東京の桜井女学校（現在の女子学院）に一年課程の幼稚保育科が開設されていた。

これはアメリカの宣教師ミス・ミリケンが創めたもので、彼女もハウ女史と同じく本国で保育の専門教育をうけた人であつた。しかし、残念なことには、この学校は、その教科内容は十分に明らかでなく、また、一八九六年（明二九）ごろには廃止され、現在記録も残っていない。

それで、その後の保育者養成のバタンとなつた東京女子師範の保母練習科と頌栄保母伝習所と比較してみよう。

一、東京女師の場合、保育者養成は第二義的であつたのに對し、頌栄はこれを第一義的本格的に考へていた。

東京女師の保母練習科は一八七八年（明一一）に開設したが、一、二名の応募者しかなく、翌年再募集して、十一名の入学者が得られ発足した。ところが、それはわずか一年で翌年廃止された。というのは、小学校教員養成のための本科生に同時に保育学を履修させて、二つの養成を兼ねる安易な方策が考へられたからであつた。この状態は、一八九六年（明二九）まで続いた。

これに對し、頌栄では、ハウ女史が保育者は小学校教師と違つた独自のもので、特別な専門教育が必要であるとの考へにたつて、本格的な教育を施した。

二、頌栄は東京女師にくらべ保育者養成に三倍の時間をかけた。修業年限は東京女師の場合是一年だったが、頌栄は二年であつた。また、週の授業時間数は東京女師は二十三時間に對し、頌栄はその一・五倍の三十八時間であつた。すなわち、頌栄は東京女師の三倍の時間をかけて保育者を養成したと言える。

三、主体となつた教師は、東京女師の場合、松野クララ夫人で、この人は家庭をもつていたため、学生や園児との接触はそれ

ほど深くなかったのに対し、頌栄の場合はハウ女史で、彼女は独身で、その全生活を頌栄にささげたので、その感化影響は大きかった。

松野クララ夫人は農商務省の役人松野禎氏と国際結婚したドイツ人で、本国でフレイベル直伝の保育を学んだ人であった。しかし、夫人は幼稚園で週一回遊戯の伴奏をただけであり、また、保母練習科では恩物の講義をしたが、これも休講が多かった。

四、教科内容においては、頌栄の方は東京女師にくらべ、音楽とフレイベルの教育哲学と、また、そのよって来た聖書の教育に力点をおいた。

頌栄は週に器楽は七時間、唱歌は四時間であったのに対し、女師は遊戯ともに一、二時間に過ぎなかった。それから、いずれも保育学に重きをおいたが、女師の方はフレイベルの実技的な面に力点をおいたのに対し、頌栄はその教育哲学、精神、人物を学ぶことに中心をおいた。

以上のようにハウ女史の頌栄保母伝習所における保育者養成は充実した独自性を持ったものといえる。この他、ハウ女史は一八九三年（明二六）に、さらに二年の高等科を増設した。これは、あまりに現実を飛躍しすぎて、五名の卒業生を送っただけで、成功しなかったが、今日から見ると、非常な卓見である。また、女

史は三年制課程の構想もいただき、卒業した者にもう一年頌栄幼稚園に残り、実習と研修をするようにすすめた。これに応ずる者もあつた。

今日、保育者の養成は二年制課程では不十分で、四年制課程でなければならぬ、それがすぐ実現困難なら、せめて三年でもと言われ、保育者の質の向上が求められているが、ハウ女史は八十年も前に、これと同じ構想をもち、これを実行に移した偉大な先覚者であり先駆者であつた。

関西保育界、キリスト教保育界の指導者

ハウ女史は先述のように保育の理論と實際を兼ね備えた、当時の日本として得難い保育の専門家であつた。そのため、各方面から指導を依頼された。一八九七年（明三十）神戸市内四園の保母たちが神戸保母会を組織し、ハウ女史に指導を仰ぎ、月一回、研究会を開くことにした。また女史は京都市保母会にも頼まれ、よくこれを指導した。

一八九七年（明三十）京都市保母会が推進の中心となり、京阪神連合保母会が結成された。これには頌栄がイニシアティブをとり、ハウ女史や和久山女史が指導の中心であつた。しかし、一九〇一年（明三四）宗教上の理由から神戸保母会は連合会より脱

退し、さらに神戸保母会も翌年解散した。

それ以来、ハウ女史はキリスト教保育界にその指導を限定した。そして一九〇六年(明三九)女史の提唱でJKU(The Kindergarten Union of Japan)が生まれた。JKUはわが国のキリスト教幼稚園と保育者養成校の連合体で、キリスト教保育の指導と推進と開拓に大きな役割を果たした。後に女史の建議で各地に支部ができ、やがて今日のキリスト教保育連盟へと発展していった。

フレーベリズムの紹介導入者

わが国の初期の保育はフレーベル万能であった。しかし、これは恩物を中心とした、フレーベルの技術的実的な面に力を入れたものであった。ハウ女史はフレーベルの方法も忠実にとり入れたが、それよりむしろ、その教育精神、教育哲学を生かすことに務めた。それは何よりも、その訳業において見ることが出来る。

一八九三年(明二六)女史は保育者養成のため「保育学初歩」を著した。これは三分の二ぐらいは恩物理論で、後は手芸と遊戯について記したものである。また、一九〇三年(明三六)にウィギンス・スミス著「幼稚園原理と実習」を訳した。この本はフレーベリズムを体験の中に充分消化し、その原理と実際を忠実に紹

介した名著である。このようにハウ女史はフレーベルの実際的な面の紹介を計った。

しかし、他方において、フレーベルの二大著作「人の教育」「母の遊戯及育兒歌」とフレイク著「フレーベル伝」を訳して、フレーベルの人物と思想と精神を理解させるように務めた。「人の教育」と「母の遊戯及育兒歌」は一般の保育界にもよく読まれ、四版五版と版を重ねた。

以上のようにハウ女史は著作を通して、フレーベルの保育の方法ばかりでなく、むしろその精神を正しく、わが国に導入紹介した点において大きな功績のあった人である。

幼児の教育、しつけに対する変革者

日本の家庭には他国に見ない一つの伝統的な特色がある。それは母子密着、過保護ということである。これは今日、核家族化して母親中心となり、なお一層甚だしくなっている。いわゆる教育ママに見られるような干渉、期待型の親が多く、そのため主体性を欠いたご都合主義の子が多い。

ハウ女史は、このしつけの欠陥を正そうと、その保育の目標の一つに「自分のことは自分でするセルフ・ディペンデンス(自己依頼)の觀念」の涵養をかけた、その徹底を計った。

具体的には、たとえば、ころんで泣き叫び、起こしてくれる者の助けを待っている子どもを、決してなだめて起こしてはならないと厳しく戒めたり、鼻水をたらしている子の前掛にハンカチをつけさせ、自分でふきとらせることを励行させたりした。当時、頌栄幼稚園にはエリートのな家庭の子が多く、女中が付き添ったり、人力車で送られてきたりした子があつたが、付き添いを決して構内に入れなかつた。そのため、泣きわめく子はハウ女史の室に入れて泣き止むまで放置しておいた。これらのことは、ハウ女史がいかに過保護を戒め依存性を正し自主性をもつた子の育成を計つたかを示すよい例である。

次に、ハウ女史は世界的に連帯性をもつた平和友好、万民同胞の精神を愛する子を旨とした。当時、欧化主義への反動から天皇中心の国家主義的体制が着々と強化されつつあつた時であつた。ハウ女史は、この時流に逆らい、大胆にも、幼き魂に国際友好、平和愛好の精神を植えつけようと努力した。

女史は軍国主義に強く反対する立場から、よく父兄や保母に武器をまねた玩具を子どもに与えないように戒めた。また、保母がマーチに軍隊行進曲を弾くと顔をしかめた。

平和友好の精神を養なおうとする女史の方針が遺憾なく發揮されたのは、世界第一次大戦の時であつた。戦争の最中、保育の主

題に万民同胞、平和友好を目指したものをかかげたこともあつた。特に一九一八年（大七）休戦となり、一九二二年（大一一）ワシントン条約が結ばれた時に、その頂点に達した。

休戦の秋の十一月の感謝祭を、平和成立祝賀会と兼ねて行った。またワシントン会議が開かれている時には、女史は早くから、この会議のことを保育にとり上げ、子どもたちに参加五大国の国旗を作らせたり、また会議の目的を教えたりした。このような女史の平和教育の反響、成果は大きかつた。ある四歳の園児が自宅である日、突然「軍艦なんかいらぬ。軍艦を造らなければ、家も学校も道もたくさんできるのに」と言つて、家の者を驚かせたといふことである。

以上のようなハウ女史の幼児教育のねらいは、キリスト教の人間観より出たものであつた。聖書によれば人間は「神の像」をもつた存在、すなわち人格をもつた者である。人格とは主体性と連帯性をもつた存在、自由と愛に生きる者である。ハウ女史は、その保育において、この人間観にたつて、一方においては主体的に自由に生きる自主独立性に富んだ子を目指すとともに、他方において、世界的に連帯性をもつた平和友好を愛する子の育成をはかつたのである。

（頌栄女子短大）

幼児のお弁当

はじめに

例年のことですが、お弁当の始まったばかりのころには満艦飾の観を呈した幼児のお弁当も、月を経るに従って風船がしぼむようにしりきれとんぼになってきます。一年中、ある水準を保ったお弁当を作り続けることは大変努力のいることです。

年のはじめに当り、子どもの心身の健康を祈り、お弁当の原点にもどって再考してみるのも意義あることでしょう。

いったい、お弁当はなんのためにあるのでしょうか。もちろん、その第一義は栄養補給にあります。幼児の場合はその他、お弁当をみんなと一緒に楽しく、同じ歩調で食べることにより、ともかく人手を借りずに自分のことを始末し、自主独立を培う第

一步となることにも大きな意味があります。

したがってお弁当は栄養のことを考えると同時に、他の子どものお弁当とのバランス、その子どもの日常に即した食事の量、食べやすさの工夫などが考慮されることが必要でしょう。

お弁当と栄養

お弁当といっても特別のものを詰めるわけではなく、ふだん食べているものが主体です。一日の食事の関連のなかで作られるのがもっとも無理がなくてよい弁当作りを長続きさせるコツですから、まず子どもにとって一日にどの位の栄養を必要とするかを確かめておきましょう。

表1は、五歳児の一日に必要な栄養量をあらわしたものです。

小
林
ト
ミ



表 I 日本人の栄養所要量 (昭和50年目標)

年 齢	性 別	熱 量 (Cal)	たん白質 (g)	カルシウ ム (g)	ビ タ ミ ン			
					A (i.u)	B ₁ (mg)	B ₂ (mg)	C (mg)
5 歳	男	1,600	50	0.4	1,500	0.7	0.8	40
	女	1,450	45	0.4	1,500	0.6	0.7	40

(厚生省栄養審議会)

大人に比べて幼児は成長が活発に行われているので、からだが小さいわりに多くの栄養をとるのが特徴です。たとえば、熱量だけを見ても、大人で体重1kgに対して40カロリーのところが、幼児では90~100カロリーの倍以上にもなります。このことから、子どもには十分な栄養を与えなければならないことは理解できません。

しかし、栄養所要量はわかっているても、毎日の食事作りとはなかなか結びつきにくいものですから、それを満たすためには、何をどれだけ食べればよいのかを食品で覚えておく、と実務的に役に立ちます。

表IIは、幼児にとらせたい一日の食品を四つのグループに分けて表わしたものです。

四つの食品群の特徴とめやすは次

表II 幼児一日の四つの食品群 (香川綾案) 17.5点 (1400カロリー) の組み合わせ

年齢	性別	食品群		1群 (4)		2群 (1.6)		3群 (1.9)		4群 (10)			
		乳 卵	魚、豆	緑黄色野菜	淡色野菜	芋	くだもの	穀 砂	油				
		(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)	(g)		
5 歳	男	400	50	60	100	60	150	180	20	20			
	女	400	50	60	100	60	150	130	20	20			
成人		250	50	120	80	100	200	100	200	250	20 25		
主な食品		牛乳、脱脂粉乳、チーズ	鶏卵、うずら、あひるの卵	魚介類、獣鳥肉、レバー	大豆、大豆製品、あずき	小松菜、パセリ、ピーマン、ほうれん草	玉ねぎ、きゅうり	さやえんどう、白菜、もやし、かぶ、なす、キャベツ	さつまいも、じゃが芋	ぶどう、いちご、すいか、みかん、りんご、なし	ご飯、めん、パン、もち	菓子類も含む	バター、ラード、植物油

注 1点80カロリーとする

1群 良質のたん白質とカルシウム、その他を含み、子どもに

は特に大切で欠かすことのできない食品です。牛乳約二本と鶏卵一個、チーズ一切れ位の見当になります。脱脂粉乳やうずらの卵を用いてもよいでしょう。脱脂粉乳は大きじ三杯でほぼ牛乳一本分（ただし脂肪は除く）うずら卵は五個で鶏卵一個に相当します。

2群 魚、肉、豆、豆製品などたん白質源となるグループで、

子どもには特に動物性たん白質が必要です。肉のめやすは、たとえば、鶏のひな肉で小切切れ、魚はあじで½尾、豆はとうふで½丁と甘みそ大きじ½杯位が使いやすい分量となります。

3群 からだの働きを円滑にするミネラルやビタミンを多く含みます。またアルカリ性食品なので体液を中和する役目も果たします。このグループは野菜とくだものですが、野菜は緑黄色野菜と淡色野菜、芋類とにわかれ、緑黄色野菜はカロチンとビタミンCを豊富に含みます。にんじんで小½本位、ほうれん草では約三株に当たります。淡色野菜は、きゅうりで中一本キャベツも中一枚位です。芋はビタミンCをたくさん含みます。また芋のビタミンCは熱にあってもこわれにくい利点があります。じゃがいもで½個位です。くだものはりんごで小一個、みかんなら中½個の見当です。

4群 穀物、砂糖、油脂のグループで熱量源となるものです。

女の子より男の子の方が穀物の量がやや多くなりますが、おおよ

そご飯が茶碗に二・五杯と食パン小二枚、砂糖大きじ二・五杯、バター大きじ一杯弱と植物油小さじ二杯強となります。

以上の食品を朝食に20%昼食35%におやつに15%夕食に30%位ずつに割るとほぼ生理に即したよい配分になるのですが、お弁当には一日分の½を詰めるといった計算の方が簡単に実用に向きます。

お弁当箱の選び方

小さい子どもが持ちこぶお弁当箱は、軽くて、こわれにくくまた衛生的に取り扱えるものとして材質はアルマイト製が一番よいでしょう。形はできるだけ単純なものの方が長く清潔に使えて、また飽きもきません。容器の大きさは、ごはんとおかずを一緒に詰められるもので、水二カップが入る位のものが最適です。

お弁当作りのコツ

どんなに苦心して作ったお弁当でも、子どもが喜んで食べない場合は骨折り損になってしまいます。おいしくていつもお弁当箱がカラッポになってしまうようなお弁当作りとは、いったいどんな条件がそろわなければならないものなのでしょうか、以下項目をあげてそのポイントを考えてみましょう。

色 子どもはよく色で食べると申しますが、お弁当のふたをあけてまず目に入るのは色、どりで。色のきれいな配合のお弁当は、また、自然に食品の配合もよくなるので栄養的にもかたくなっています。卵の黄色と白、肉の茶、菜の緑、にんじんの赤、のりの黒といったふうに食品群がきれいに揃い、しかも色が美しく盛られることになるからです。でも行き過ぎて色をあくだい色素を使った既製食品に求めたり、食べられない飾りを添えたりすることはいけません。

味 たとえ、子ども向きの味つけでも甘いものだけの羅列でなく、甘いもの、からいものをバランスよく組み合わせましょう。また、大人のように酢のもののような酸味はあまり欲しがりませんが、やわらかい味のサラダやみかん、りんご、苺などのもやなくだものは好みますので、これらを食べやすい形にして添えるなどして酸味も適当に取り合えます。

味つけは、お弁当のおかずでも普通か、やや濃いめのていどに止めましょう。ご飯の分量が少ないので、おかずの味が濃いと食べられなくなります。全体が淡白なものばかりで味がほやけてしまうような場合は、濃い味つけのものをほんのひと箸添えて味をひきしめるようにします。

舌ざわり 幼児は水けを好みますので、パサパサと乾いたお弁

当は適しません。しっとりとした感じに仕上げましょう。また、調理法も煮る、焼く、揚げる、蒸す、あえるなどを上手に組み合わせ、同じ触感や舌ざわりにならないように考慮します。

調理のヒント 忙しい朝に手早くお弁当を作るためには、前夜の一品を生かしましょう。たとえばハンバーグのとき、小型のものも一緒に作っておいて翌朝煮る。すぎ焼きの肉は少量とり分けておき、ソテーしてケチャップ味に、ほうれん草の一部もあらかじめ残してごまあえに利用するといった具合です。また冷凍食品の利用も大変便利です。計画的に前夜のうちに冷蔵庫内で解凍した方がよいもの、また火を通しながら解凍するものなどを使い分けます。自家製のシューマイ、フライ、コロッケ、ミートソース、ゆでただけのミックス野菜、ほうれん草などは重宝します。

お弁当のつめ方

お弁当のおいしさに先立ってもっと大切なことは衛生の問題です。お弁当が腐敗して食中毒をおこしたりすることのないようにしましょう。暖かいものはさましてから詰め、肉や魚の生焼け、生煮えを詰めてはいけません。ソーセージやかまぼこもよく使いますが、必ず熱をとおします。白あえはくさりやすいものですから避けた方がよいでしょう。次に移り香は不快なものですから、

においの強いものを詰めることはよしでしょう。汁のでやすいものや、サラダ、くだものなどは別に密封容器に入れます。

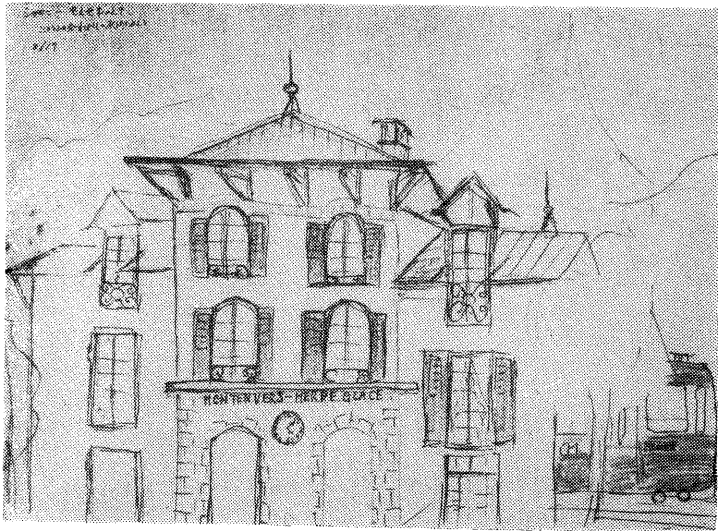
その他幼児はまだ箸さばきも覚つかなく、テーブルにご飯粒をポロポロこぼす年齢です。食べやすくとめることも大切です。ご飯を小さく握ったり、サンドイッチも中身がバラバラにならないものは喜んで小さく切り、魚は骨や皮ははずして身をほぐすなど細かい心づかいが必要です。

まとめ

幼児のお弁当作りにもいろいろと心を配らなければならないことがたくさんありますが、一応の基準は基準として個人差のあるものですから、子どもの負担にならないように弾力性をもたせたいものです。

最後に献立のことが残りますが、前述のことからを考慮し、はじめにも記した通り、よいお弁当を作り続ける熱意と努力があれば、お弁当だからといって特別に身構えないでも、毎日の食事作りの中から素直で、よいお弁当の献立が作れるものです。そして、それがまた、その子どもに一番ふさわしいお弁当のはずです。

(女子栄養大学)



母と娘のヨーロッパより

スイス シャモニー

心理療法と

幼児教育とのかかわり



佐藤文子

少々長くなりましたが前回は私のアメリカでの経験の一部をご紹介します。テーマからはずい分横道にそれた感じもいたしますが、幼児教育はもちろん、心理療法も決して個人の特異な問題を解決してやるための技術ではないのでして、個人がその中で生き、感じている社会・文化をぬきにしては、個人の問題の理解も解決もあり得ないと私は思うのです。これまではどちらかというと病院や施設などについて紹介しながら、私の感じたこと、考えたことなどを述べてきました。ここで少し観点を変えて私の個人的経験から心理療法を考えてみたいと思います。

心理療法をうける

精神分析の方では精神分析を勉強する過程で、自分自身が

精神分析を受けること——これを教育分析といいますが——が要求されます。私の立場は精神分析ではないのですが、一度自分でカウンセリングあるいは心理療法を受けてみたいとかねがね思っていました。それでアメリカにいろいろなところへ悩むこともありましたが、受けるにはいい機会ではないかと思ひ、病院のスタッフの一人に頼んでセラピストの役を引き受けてもらいました。

さて、いよいよ始まりますと、それまではもつと自分をよく知りたい、変わりたいと思っていましたのに、急に恐しくなりました。自分の知らないものが出てきはしなないか、なにか自分があはかれるような気がして非常に恐しく、面接面ですっかり固くなって自分を防衛してしまいました。そんなですから面接もスムーズには進展しません。一つには病院の

スタッフがセラピストで、彼とは面接場面以外にも病院内で会う機会があるので、そのために一そう防衛的になるのだからとも思われました。そこで途中から病院外のセラピストにきりかえました。詳しい過程は省略しますが、そこでも最初は固くなっていましたが、しだいに自分が変化してゆくのを経験しました。でもそれはずいぶん長く苦しい過程で、途中で何度もやめようかと思いました。変わりたい変わりたいと思いつつながら、一方で変わるのが恐しく、今の自分にしがみついている自分に気付いた時、私のうちに徐々に変化が起こっていたのでした。そしてその時、本当の自分を知らたいといながらも、本当の自分に直面し、自分を受入れるのを拒んでいた自分にもまた気付いたのでした。いったん変化し始めると非常に自由に身軽に感じられ、今度は変わってゆくのが楽しく感ぜられるのでした。

このことを私は本を読んで知っていたのですが、知識として知ってはいいても、実際に体験してみないうちは本当にはわかっていなかったのです。精神分析の創始者であるフロイドは、神経症者は発達のどこかの時点でリビドーが固着しているのだといいましたが、人間は生成変化してやまないもので、その限り成長を続けてゆきます。心理療法を必要とする

人とは変化を恐れている人といえましょう。

フロム・ライヒマンはアメリカで精神分裂病の患者に精神分析を試みて、分裂病の心理療法に大きな貢献をした人ですが、彼女は分裂病患者は耐え切れない不安と孤独を感じており、彼らの不安と孤独は治療者の側にもまた不安と孤独をひき起こすということです。そして彼女はこのことに関して次のような意味のことを述べています。神経症や分裂の患者は幼児期に大きな情緒的混乱を経験し、それが解決されないまま、その混乱から自由になれず、そのため成長・変化が妨げられているのです。そしてそのことが心理的死として経験され、それが人を不安にし、またこのように過去に固着するため、今、ここで自由に他の人とかかわれないことが人を孤独に感じさせるのです。そしてこのような成長阻止の可能性とそれに対する不安、——それは根元的には死に対する不安とその前での孤独に連がるのですが——はどの人にもあるのであって、分裂病者に出会うと彼らのうちの不安が私たちの中にある不安をかき立てるのであるのです。

K君の場合

最近私は付属幼稚園で三歳児のクラスを観察しています。

幼稚園が少し離れていますので、一週に一度位の観察なのですが、行く度に違った子どもの姿に接してハッとすることがしばしばです。長い夏休み後、子どもたちが幼稚園に馴れるまでまた大変だろうと思っていましたら、夏休みが終わった日には皆元気で登園し、夏休み前に比べると皆ぐんと成長しています。夏休み前には一人で自由に遊ぶこともほとんどせず、ことばもほとんどきかれなかったK君は誰よりもまっ黒に日焼けして健康そうに見えるだけでなく、表情も明るく、柔らかに、一人で楽しそうに遊び、また仲間にも自分からはたらしかけています。私は夏休みが終わってから、幼稚園に行つてK君に会うのが楽しみになりました。

最近自閉症児のことがいろいろと話題になっています。こういう子どもの行動にみられる大きな特徴の一つに固執傾向と呼ばれるものがあります。たとえば家の中で家具や物がいつも同じ場所にないと不安になる。病院に行くのにいつも同じ道を通らないと機嫌が悪くなる。自閉症については医学的にも、心理学的にもまだまだわからないことが多いのですが、このような傾向が子どもの成長を妨げているのでしよう。あるいは成長・発達できないことの不安がこういう症状となつて現われているのかもしれない。

ところで医学では一般に治療の前に診断があります。心理療法の場合はどうでしょうか。よくあの子は内気だとか、落つきがない、あの子は攻撃的だなどといひます。そしてそれが顕著になると困つた子ども、問題の子どもとなります。こういう判断はどこから、どのようにしてなされるのでしょうか。大抵は相手を観察したり、共に生活する過程で得られる印象によりますが、教育場面では知能検査や性格テストなどテストを行う場合もあります。また子ども——に限らず人の心理的問題や行動上の問題を扱う時にはその人の発達史を知る必要があるともいわれます。その人が過去にどのような経験をし、それが今日のその人の行動や心の動きにどんな影響を与えているかを知ることが大切だといひのです。確かにその人の生活史といふ文脈の中でその人の行動や反応はよりよく理解されますし、またそのような関連がわかるとこの人はこういう場面ではこういう行動をするだろうといふ予測もつきます。でも人はいつても予測通りに動くものではなく、昨日までのK君の行動からの予測が見事にはずれた時、私ははつとしてK君を見直し、今、ここにいるK君と出会うのです。私が今しているようにある期間をおいて継続的に子どもをみていますと子どもの変化が非常に目につきます。一カ月前

のK君、一週間前のK君、昨日のK君、それぞれ違った姿を

しています。一体どれが本当のK君なのか迷ってしまいました。一ヵ月前のK君、一週間前のK君、昨日のK君、K君はK君です。私の当惑はどうも一ヵ月前、一週間前、昨日、それぞれの特典での彼の姿をこれがK君と固定してしまうところからくるようです。固い表情でつっ立ったまま他の子の遊びを傍観しているK君をみて、私は「K君いつになったら一人で遊べるようになるのかな」と思うのです。そして一ヵ月後に変化したK君に出会って「おや」と思うのです。どうもK君を遊べない子と勝手に決めてしまっただけで、遊んでくれればよいのにと勝手な期待をしていたように思われ、今、K君にすまないような気がしています。教育や心理療法では、「この子は内気で引込み思案だから、積極的な子どもにしてやるう」と思って、子どもがそのように変化するのではなさそうです。内気だとか引込み思案だとかいう判断自体が、こちらの勝手な判断であることが多いようです。そして教育や心理療法の場では、教師やセラピストがそう思い込むことで、相手の変化を阻止したり、逆にかえってそういう傾向を強めている場合が多いようです。それよりも内気とか攻撃的とかみられる行動が教師やセラピストに対する反応である場合が多

いのです。

ド・ローリエ氏の考え

さて成長や変化はどのようにして生ずるのでしょうか。多くの人がいろんなことをいっています。私がアメリカで指導を受けたド・ローリエという人の考えを少し紹介してみたいと思います。彼は小児分裂病や自閉症の研究を長年つづけてきた人ですが、彼はこういう子どもたちの治療は病気の原因を取り除くというより、こういう子どもには成長に必要な風土、条件が欠けているので、それを用意してやる必要が重要なのだと主張します。したがって必要なのは治療というよりもむしろ教育なのです。

それでは彼のいう成長に必要な風土・条件とは一体どういうものでしょうか。簡単にいえば、子どもが成長してゆくにはまず生きていくことに楽しみと喜びを感ずることができなければなりません。私たちが生きていくことに喜びを感ずることができないとしたら、生きることは恐らく難しくなるでしょう。問題児といわれる子どもは一般に生きる喜びを経験できないでいる子どもたちです。その中には環境条件からそれが妨げられている子もいるでしょうし、また生来的に楽

しみ、喜びを感じる力の弱い子もいるでしょう。

赤ん坊が人間として成長してゆく、それはまた絶えざる学習の過程でもあります。ド・ローリエは小児分裂病や自閉症の子どもと接触しながら、効果的な学習がなされ、適応的で目標志向的な行動を習得してゆくために、情緒が非常に重要な役割を果たしていることに気づきました。人間関係の中で経験される快・不快の感情こそ経験を統合し、組織化し、学習を可能とするのに欠くことができないものなのです。そしてこれはことば以前に身体で感ずるものです。彼は人間のコミュニケーションの基本として心身モデルによるコミュニケーションを考えます。生まれた瞬間から母と子は身体的接触を通してコミュニケーションします。母親は優しく暖かく、しかし単純、明快に、自分が子どもを愛し、受け入れていること、子どもと一緒にいるのを喜んでいることを子どもにも伝えます。

乳幼児期の情緒的経験を重視する点では精神分析の立場も同じですが、精神分析では幼少期の不快の体験はその後の人格の成長に好ましくない影響を与えると考えるのですが、ド・ローリエは、それより以前の——これは必ずしも時間的にとということではなく——母と子の身体的・感覚的接触によ

る、快であれ、不快であれ、情緒的経験を重視するのです。

彼は治療者の役割を母親の役割に類比させていますが、それは母親が優しく、暖かく子どもを受け入れるというだけでなく、更にもっと重要なことは、子どもの成長に基本的に欠くことのできない身体的接触を与えるという点においてなのです。抱かれたり、ほほずりされたり、時にはたたかれたり、こうして子どもは母親を知り、同時に自分に気づき、また自分の要求を伝えるにはどう反応すればよいかを学んでゆきます。

しかし母親の中には拒否的な母親もいれば、愛情はあっても身体的接触をあまり好まない母親、あるいは母親自身のエネルギーレベルが低くそのため伝達のし方が弱く、子どもに十分母親の反応が伝わらない場合、あるいは複雑な伝達のし方で子どもが混乱してしまう場合もあります。いずれも母親として十分機能していないといえましょう。セラピストは自然に、自由に、卒直に、愛情深く、しかもセラピストが子どもと一緒にいることが子どもに十分に伝わるように接触することが大切なのです。こうしたセラピストとの接触の中で子どもは他の人と一緒にいることは楽しいことだ、この世に生きることはすばらしいことだと感ずるようになります。

セラピストⅡ教育者

以上ド・ローリエの考えを紹介してきましたが、人間は他の人と接し、他の人を知ることによって自分を知ってゆきます。他の人から愛され、他の人を愛することによって自分を愛することができるようになります。このように成長・変化は人間関係の中でのみ可能なのです。ちえ遅れと呼ばれる子ども、身体に障害をもつ子ども、生来的には与えられたものはそれぞれ違っているかもしれませんが、その子なりに人間として生きる喜びを経験し、精一杯生きることができるよう援助するのが、セラピストの仕事です。

一人一人の子どもを受入れ一人一人の子どもの可能性を十分に伸ばしてやる、この点では幼児教育にたずさわる幼稚園の先生や保育さんは同時にセラピストであり、またさまざまな理由から成長の妨げられている子どもを成長へと援助するセラピストは同時に教育者でもあります。編集部から与えられたテーマのまま今まで心理療法ということばを用いてきましたが、心理療法ということばはあまり適切でないようです。子どもの場合は遊戯療法ということばを用いる人もいます。そしてまたそれにもいろんな立場があります。しかし、

大切なことはことばや技術ではなく、子どもはそこで何を経験しているのかということでしょう。これはまた大人についても同様で、心に悩みがあったり、行動上の問題がある場合には、お医者さんのところへ行っても手術をして悪いところを取り除いてもらうというふうなわけにはいきません。当人が変化し、成長することのみが可能で、また必要なのです。

先にセラピストは同時に教育者であるといいましたが、これは何かを教えるという意味ではなく、子どもや患者に本来そなわった成長の可能性を伸ばすその助けをするという点においてそのようなのです。そして援助ということもセラピストが一方的に何かしてやることではなく、本来人は人間関係の中で成長するものであり、その成長に必要な人間関係の一方の項にセラピストがなるということです。教育も年齢が小さければ小さいほど、何を教えるか、その内容よりもまず教師との関係が問題になります。先生から受け入れられているという経験なしに、子どもは何かを学ぶことはできないでしょう。自由に、自然に、生き生きと主体的に生きている先生と出会うことによって子どもは生きている喜びを経験し、自分も自由に、自然に生き生きとした人間に成長してゆくのです。

(秋田大学教育学部)



落とし穴としての

「発達段階に応じた指導」

南館 忠智



1 はじめに

これから数回にわたって、いささか「へそ曲がり」な文章をつづって行きます。そうでなくても相手を理解しつくすことは至難の業。それに加えて、この「へそ曲がり」、厚かましいのを承知のうえで、初めにお願いたします。ゆめゆめ早合点をなさらぬよう。筆者の意がどこにあるのか、ひとつジックリお読み取りください。そしてその後で、ご批判ご叱正いただけるなら、これぞまさに筆者にとって望外の喜びです。

まず第一回は、落とし穴としての「発達段階に応じた指導」、という、たぶん奇妙にひびくであろうテーマを選びました。よろしく最後までおつき合ってください。

2 落とし穴？

落とし穴としての「発達段階に応じた指導」、とは一体どんなことなのか。一体全体お前は何が言いたいのか、と、さっそくかみつかれそうです。でも、冒頭からそんなにセツカチにならねば困ります。

ある高名な方がこんな経験を書いておられました。ある

朝、電話がかかってきたのだそうです。電話の主はとげとげしい声で、あなたの著わした本は要するにどういふ結論なのか、短くまとめればどんなことなのか、と即刻の回答を要求した——とのことです。話はもう少しつづくのですが割愛させていただきます。皆さんはこの電話の主のふるまいを、どのように受けとめられますか。

さて、本題に戻りましょう。そして、少しばかり結論めいた言い方をしておきましょう。現時点において筆者は、「発達段階に応じた指導」という表現は総点検されなければならない、と強く感じています。総点検のうえ、修正が必要になるだろう、とも感じているのです。この表現の周辺にはかなり大きな落とし穴がひそんでいる、と心配になるのです。

この心配な気持ちをわかっていたくのは、じつに大変な仕事のように思われます。なにせ「発達段階に応じた指導」という言いまわしはあちこちで頻繁に使われており、それだけこの考え方は広く受けいれられているわけです。あなたご自身、いかがですか。全体としてほとんどすみずみまで広く行きわたった、多くの人びとの心に抵抗なしにしみこんでしまった、この考え方……。

ちょっとばかりの地震には、ビクともしない(ように見え

る) 堅固な建物をつきくずすにも似た難事業——ではあっても、その背後に「不純物」が感じとれる以上、手をこまねいているわけにはいきません。ドンキホーテの姿が目につくのを禁じませんが、それでもあえてこの難事業に着手しようと思います。

3 歴史的役割

初めほめておいて後でけなす、という論法になってしまふのはやや不本意なのですが、やはり「発達段階に応じた指導」という考え方がはたしてきた歴史的役割をふり返ることから始めます。

子どもたちがいまどのような状態にあるのか。どんな特徴をもっているのか。これを知ることが、彼らへの働きかけ方を決めるための必要にして不可欠の前提であり、この仕事を おろそかにしたまま実践に移ろうとすれば子どもたちから手痛い反撃を受けるハメに陥る——とする理解は、今日、ほとんどすべての「保育実践者」の共有財産になっています。

実際に手痛い反撃に会って、体験的にそう思いこまされた方、また、子どもからのこっぴどい拒絶反応を予感して、理念的にそう信じこんでいる方。そのルートにはいくつかのバ

リエーションがあるものの、たどりつく結論はほぼ同じ。

子どもたちの実状を的確に把握すること。これがたいせつであり、そのための努力が欠かせないことは、これは確かです。そして、このことを多くの人がとの心にしみこませるのに「発達段階に応じた指導」の発想法があずかつて力あったことは、疑いのないところでず。

「定められた」(自己)の主体的判断で定めたのではない)路線をつつ走るのを通例とした時代へのアンチテーゼとして、また子どもちたという学びとり伸びていく者の側への配慮が不足した時代へのアンチテーゼとして、この考え方が新鮮さあふれるホープと期待され、脚光をあびたのは、当然のなりゆきだった、とも言えましょう。

そんな時代に別れを告げて、むしろそれとは反対の方向に歩み出すための、格好のスローガンが、この「発達段階に応じた指導」だった、と筆者は思うのです。

4 レディネス観

落とし穴はすでにこのころからひそんでいた、というのが筆者の見解です。子どもたちの実状を的確に把握することが「何のために」必要なのか。問題のポイントは、この点にか

かわります。

いささか独断的な言い方になるのですが、「発達段階に応じた指導」の発想法が子どもたちの実態把握を必要としたのは、「それに合わせた働きかけ方を明らかにするため」、もっとはっきり言いきるなら、「実態を後追いするため」だった、と思われます。

もう少し説明がいるようです。とくに「後追い」については少々いいねいな説明を加えるべきでしょう。そのために、二つのレディネス観を引き合いに出すのが便利です。

ご承知のとおり、レディネスとは、ある行動の習得に必要な条件が用意されている状態、というほどの意味をもった心理学用語です。ここで注目してみたいのは、この用語がどのような背景のうえで、どのような文脈のもとで使われてきたか、という点です。

これもまた筆者の独断がまじりますが、二つのレディネス観があった(あるいは、ある)——名づけて「レディネス探知的アプローチ」と「レディネス促成的アプローチ」とがそれである、という次第です。これら二つの接近法は、レディネスの「形成」という側面をめぐって、大きく見解を異にする、と言えそうなのです。

後者、促成的アプローチは、働きかけによってレディネスをつくり出すことが可能だ、という原則線を確認するところからスタートします。そして、ある行動ができるようになるために、どのような特徴をもった経験が必要（あるいは有効）なのか、その関係を明らかにしようと努力を重ねます。

これに対して、前者、探知的アプローチは、形成の過程ではなく、その結果の面に主たる注意を向けるのです。ハサミを使うためのレディネスが、字を覚えるためのレディネスがすでにできあがっているかどうか、それをはっきりと確認すること。この点が最大の眼目にすえられるのが通例です。

5 「探知」の実例

過去のレディネス研究をふり返るとき、探知的アプローチが圧倒的に優勢だったことは、だれの目にも明らかです。ここで筆者は、少数派の立場をとろうと思えます。なぜ多数派に反対するのか。例を引きながら述べてみましょう。

ゲゼル (Gesell, A.) のグループによる報告は、あまりに有名です。影響力の面でも抜群の強さをもってきました。階段のぼり、ハサミ使い、記憶、ことばの練習など、いろいろな行動について実験したのですが、ほぼ同じ結論を導き出し

ています。

彼らは、子どもの側の条件を等しくするために、一卵性双生児を用います。階段のぼり実験では、一方の子に生後四十六週から六週間練習させ、他方には五十三週から二週間だけ練習の機会を与えました。その結果、早く練習を始めた子は手助けなしでのぼれるようになるまでに四週間を要し、六週間の終了時には二十六秒で階段をのぼったのに対して、後から始めた子は開始直後から独力でのぼりきり、二週間の練習終了時には十秒かかっただけだった——とのことです。

ゲゼルはこの結果を、三倍も多く練習したことより七週間おそく始めた方が大きな効果を生んだ、と判断し、「成熟」の要因が最大のカギだ、と結論したのでした。

レディネスができあがるのを待つて、しかも、できあがったらできるだけ速やかに練習させるのがよい。早すぎではないかと同時に、時機を失してもいけない、とする考え方の源もここから発しています。

これらの主張が正しいとしたら、私たちの日々の保育実践はまさに「発達段階に応じた指導」でよい、そのようになるべきだ、ということになるはずで、レディネスがいつできあがるか、たえず注意を払い、できあがったのを敏感にキ

マッチし、働きかけて行く——。筆者の表現によれば、これこそが「実態を後追いつする」保育そのものなのです。

6 「探知」の限界

できない子にやらせようとしたって、それは無理だ、かわいそうというものだ、という「信仰」が、探知的レディネス観を支え、実態を後追いつする保育をはびこらせている。実感としてそう思います。

この信仰は、一朝一夕にできあがったものでなく、きわめて根強いだけに、このうえない強敵なのですが、反論を試みることにいたします。

まず、「できない」ということについて。一体、何をよりどころに、できない、と判断されるのでしょうか。この子は〇〇ができない、とおっしゃるとき、生まれた瞬間から絶えざる成長発達をとげてきた、そして人生の最期の瞬間まで変容しつつけるであろう、そのような存在としてその子をとらえておられるでしょうか。過去とも、未来とも切りはなしで、「この瞬間」においてだけとらえてはいはしないででしょうか。

もしそうだとしたら、考え直しが必要と思います。いまだ

きない事ごらの中で、やがてできるようになることは決して少なくありません。過去—現在—未来の連続の中ですべてを発想する。このことはとてもたいせつです。あすできるようになるかもしれないことを、きょうできない、として切り捨てる。こんな乱暴が許されていいでしょうか。

探知的レディネス観もこれと同じ「危険」を内在しています。できるようになったか、なったか、と探知をくり返す努力を最大限に買ったとしても、現在から未来にかけてのつながりが完全に欠落している、という「欠陥」は認めざるをえないでしょう。より本質的には、どのような経験の裏打ちによって、できない状態からできる状態への「変身」がもたらされるのか——この変容のメカニズムを解明する必要性がほとんど意識されていない点に最大の弱点が見いだされるのです。

次に、「やらせる」ということですが、この面からも同じ問題点が引き出されてきます。実際のところ、やらせることなしに「無理だ」と結論づけている（？）場合が少なくありません。これは論外と言うほかありません。「やらせた」場合も、そのほとんどが、たった一つの方法しか試みられていないのが実状です。ゲゼルらの実験でも、どのような特徴を

もった練習方法だったのか、ほとんど報告されていないありさまです。

これでは本当に「無理」なのかどうか、正当な判断はできそうにありません。無理である、と最終的かつ全面的に証明することのむずかしさを、読者諸賢は先刻ご承知のはずです。たまたま思いついた一つ二つの方法が効果をもたなかったからといって、無理だ、と結論づけることが無理を含むことは明らかです。

このような努力があまりにも中途半端だったことも、そもそも「無理だ」という消極的な方向に発想された原因も、さかのぼればつまるところ、変容メカニズム解明への意識のうすさにある、と筆者はにらんでいます。

7 変容メカニズム

子どもたちの実状を的確に把握することが、何のために必要なのか、と問い直すとき、「発達段階に応じた指導」という発想がかなりの弱点を含みもっている、と述べてきました。その弱点は、どのような経験がどのような過程をへてどのような変容をもたらすのか、これを解明しようとする努力の欠如に集約される、とも述べました。

すでに用意された実態を後追いつけるだけの保育実践は、ある意味で、保育者にとっても子どもたちにとっても苦勞が少なく、快調で、楽しいものです。言い過ぎを覚悟で言えば、放っておいても伸びるものを、これ見よがしに真面目くさって、うわつらをなぞっているに過ぎないのですから、当然です。あるいは、保育者は満足げに楽しいのだが、子どもたちは盛りあがりのない単調さに苦痛を感じている、といったところが実際の姿なのかもしれません。当節の子どもは先生を喜ばせる術にたけていますので、ご用心、ご用心。

保育者が真に保育者であるためには、なれ合いや自己満足ではなく、子どもたちとの間に展開される真剣勝負が不可欠だ、と筆者は考えます。この真剣勝負は、楽でもなければ、快調でもない。むしろその逆の可能性が大きいでしょう。もつと言えば、「勝算」がいつもわが方にあるとは限らず、また実際「負ける」ことだってあるかもしれないのです。

そんなアヤフヤな保育など、と一笑に付さないでください。真剣に考えれば考えるほど、このように思えてくるのです。「発達段階に応じた指導」という発想法を飛躍のためのバネとしつつ、発達をもたらす具体的なメカニズムを明らかにする努力の必要性を強調してきました。しかし、現状にお

いてこの努力は、言うはやすく行うに難い部類に入ること必定です。どうすればそのメカニズムを明らかにできるか、そのための王道をわたしたちはまだ手中にしているのではありません。そんな無責任な、となじられても、いたし方ありません。これがわたしたちの偽らざる実状なのです。ただ、最大のポイントは、この後にあります。

8 今後の努力

わたしたちはいま、かなりの重みをもった岐路に立っています。最大のポイントと言ったのは、さて、どの道を選び、歩き出すか、に他なりません。

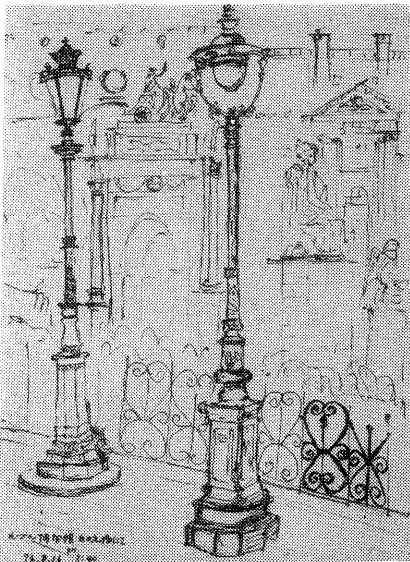
くどくは申しますまい。一方は平坦な道、他方はイバラの道、筆者がどちらを指向しているか、これもくり返しますまい。そしてまた、あなたがどちらの道をとられようと、邪魔だてなどしますまい。

などと言うのは、きれいごと。じつのところ、あなたがどの道を進まれるのか、とても気になるのです。本音をはけば、イバラの道を進もうと決心する方が一人でも多くなることを強く望んでいるのです。まだ先によく見通せない道にお誘いするのに、いささかの負い目を感じるのですが、これが

正直なところ。です。

今回は第一回。「総論」めいたことを述べてきました。お読みいただいたあなたの心のどこかに、何かモヤモヤした、あるいはイライラにも似た、要するにスッキリしない部分がある、ちよびりでも生じたとしたら、筆者としては、まずは大成功。次回以降、「各論」的な事がらを扱ってみたい、と考えています。

(三重大学)



母と娘のヨーロッパより 個性的な街燈

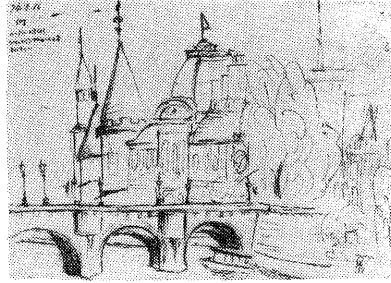
(ルーブル博物館前)

母と娘のヨーロッパ

河井多喜子

祥子

きき手 周郷 博



はじめに

周郷 河井さんのお母さんと、祥子さん、お母さんと娘さん二人だけで、ヨーロッパの旅をしてこられて……カメラなんか持って行かないでね。方々でスケッチをして、流行の観光とは全く違った旅でしたね。

母 放浪の旅……？

周郷 自分の足で歩いて、言葉も話せ

ない、というハンディキャップ——それを逆に「生かして」、普通の旅行者と違う目で、ソ連から始めて、ヨーロッパ各地の、町の姿、あちらこちらで遊んでいる子どもと、人間と人間、まあ広いいみの人間関係や大人と子どものつくっていく生活というもの、自然と人間のそういうものを見てきたわけね。さすらい、放浪の親子旅で、そういうことを今日はお二人から話してもらいたいと思う。

初めにやっぱり、何処からどういふうに行った、という道筋を、地図を書くみたいに話してもらって、それから中身に入ってもらいましょうか。

横浜からモスクワへ

母 八月六日の十一時に、横浜を出帆しました。ジェルジンスキー号です。それから船で、三陸、津軽海峡を回り、ナホトカに着きました。ナホトカからハバロフスクまで鉄道、それから飛行機でモスクワまで参りました。

娘 横浜、ナホトカの間が一時間の時差があつて、それからハバロフスクからモスクワまでは七時間……戻るわけです。それからまたヨーロッパに入って二時間かな、時差がありました。

母 モスクワに二泊して、赤の広場を見たり……

娘 民族舞踊を見ました。チャイコフ

スキー・コンサートホールで。

母　そしてそこまでご一緒だった方々に見送られて、本当の二人だけの旅が始まったわけです。

娘　朝早く、空港に行き、コペンハーゲンへ向かいました。

周郷　その時、心細いと思った？

娘　前に戻りますけれど、横浜を出る時に、まず私が鼻血を出しちゃったんです。緊張のあまり……

母　私は、彼女がいるから、割合に平気だったんです。いるからだか、もともと平気なあなたなのかはわかりませんが。

娘　ところが最初の緊張のわりに、モスクワまでは、日本人はいるし、何となく同じ船の仲間意識みたいなものもあって気持ちも和らいできていたわけです。

それが、そのお仲間たちに見送られて空港へ行くタクシーに乗ると、言葉はロシア語でわからないし、全くつんぼになっ

ちゃうわけです。空港に着いても、何かだかサッパリわからないんです。

周郷　ほくも去年だけど、心細かったな。ぼくらの乗る飛行機のことなんて、ほとんど放送してくれないの。時間もおくれたし、ぼくは飛行機が行っちゃって一人になりそうな気がしました。ちょうど同じ飛行機にのるイギリス人が二人いたもんで、三人で一緒にいましたけれど、そうじゃなきゃとても心細くてね。

あなたたちも心細い思いでしたしょ？……それが旅というものです。

娘　ところが、私たちがついていたのは、全部そういう乗物が時間通りだったんです。(一番最後、台風で船が一日おくれましたけれど、本当にそういう面ではラッキーでした)

でもモスクワの空港で、チケットを持って、そこにすわってろっていわれたんです。ところが見るとどうもそのゲート

は開いているんです。それであわてて乗り込みましたけれど、もしそこにいわれた通りにすわっていたらおいて行かれたかもしれないんです。自分たちで、気を付けてなければいけないわけですな

周郷　ソ連でもヨーロッパでも、日本みたいにバカ親切にしませんからね。

母　それに、もし何かいってくださっても、ね、あれでしょ？(笑い)

周郷　団体でソロソロ行くとね、添乗員がいて、全部一束にして連れて行くでしょ？ それと違って、緊張っていうものが、どうしても旅の意味のあるものにするには必要なのだと思いますよ。

母　何となく、身が引きしまるっていうのか、とてもいいと思いました。

娘　これがやはり、緊張感のない旅だったら、違う印象でしょうね。

周郷　そりゃ、満足感が、これほどないと思いますよ。

コペンハーゲンからロンドンへ

母 それで、まだ途中でしたね。コペンハーゲンで大体半日遊びました。チボリ公園でゆっくり遊んで、鐘の音を聞いたり……

娘 それから、何ていったかしら、イギリスの方へ行く汽車に乗りました。それが向こうの汽車って短かいんですね。

たとえば、ハンブルグ行きとか何々行きとかいのが全部くっついてるわけ、一つ間違ったら何処かへ行っちゃったり、終点になっちゃったりなんです。それをさがすのにまた大変！ あっちへ行ったりこっちへ行ったり……

周郷 想像できますね、緊張して。(笑い)

娘 ところがそのさがしあてたのが寝台車なんです。でも、何しろこれに乗らなくちゃ、というんでわからない英語で

交渉したわけ、そしたらその車掌のいうには、物凄く高いっていうんです。それでもいいのかって何辺も何辺も聞くもんで、その内に何だか心細くなっちゃって、ひとまずその車を降りて少し前へ行ったら次の車両は普通の一号車、あのコインパートメントのだったんです。それでやっとな乗れて……

母 ここからはもうユーレイル・バスが使えます。

娘 このバスはとても助かりました。その都度切符を買う必要がないので、目的地についたらまず次に乗る汽車の時間をたしかめておいて行動に移ることにしていました。それからコインロッカーを探し、荷物を置き、お手洗をさがす。それが必要最低限の行動です。

周郷 自分で汽車の切符や、飛行機の切符をとるっていうこと、これは最初、ずい分緊張しましたね。

娘 何しろ汽車が動き出すと、今度は目的地までちゃんと行くかどうかというのを確認するまで大変ですね。

周郷 今聞いた話で、この寝台車は高いけどいいのかって何度も聞いたっていいましたね。向こうの駅で切符買う時も、イギリスでね、何時と何時とあるんだけどどこの方が安いんだけどどっちがいい？ なんていうの、日本の駅員なんてそんなこといいませんね。高からうが何だろうが……

娘 私たちもロンドンからパリへ行く時、フランスから先はバスが使えます。すけれど、そこまで使えないのでイギリスで切符を買ったわけね。そしたら、フランスのぎりぎりのところまで買っちゃり、パリまで通して買っちゃった方が安いですって、それも教えてくれました。

周郷 何か、駅員のお客さんに対する

態度、日本では非常に機械的ですが、違
うのね。

母 乗る人の身になるっていうのか。

娘 そう、普通日本だったら顔なんか
見ないでどんどん売っちゃうでしょ？

それがちゃんと顔を見て、まず私のこと
は何歳か？ ってきくわけ。何かと思っ
たら年齢で安くなるらしくて、それで聞
いたらいいんです。私はわからなくて、
ボケーツとしてたら、"バスボートを見
せる" っていうんです。それで見せたら
年齢が書いてあるので結局普通の料金で
したけれど……

そういうことが、とっても親切!! (を
感じさせる)

周郷 だから、親子二人で汽車に乗っ
て緊張してるわけでしょ？ 一方では、
でも車掌さんや駅員が、ただ事務的じゃ
ないんで、あと味っていうのか、何か喜
びが残りますね。ヒューマン・タッチっ

ていうのか、人間的なものがね。二人で
冒険してるわけだけれど、それは、楽
しみでもありますね。

娘 フワッと緊張感が消されて、喜び
に変えられるっていう場面が、たくさん
ありました。

周郷 無表情に口をきいたりしないの
ね。ちょっとニコツと笑ったりするの。

娘 それも、私たちなんか言葉でいっ
てもわからないと思って、皆が書いてく
れるんです。"いくら"とか"どこまで
行く"とか……

周郷 ああ、なるほど！

娘 そういうわけで、オスタンテとい
う船に乗る所まで行って、そこはもうベ
ルギーです。おりて切符を買って、四時
間ちょっとでイギリスに渡りました。

母 その船で、すばらしい日本の男性
にも出会いました。

娘 家族で向こうへ行ってる方で、親

切っているか、考え方がとてもしっかり
している方でした。

母 イギリス人っていうのを"初めはあ
まり好きじゃなかった"って。でも"今
はとてもイギリス人を尊敬している"っ
て。

こうしてロンドンにつきました。八月
十二日です。

娘 その一週間ぐらい前からやっと夏
になったという、*bad summer* とかいう
六十年ぶりぐらいの気候だということ
でした、そして二日ロンドンにいました。

パリ

娘 それからパリへ向かって、朝早
く、まだ店も何もしまっているところへ
着きました。

周郷 それは汽車で？

娘 ええそうです。コンパートメント
には二人だけで、十時間ぐらいでしょ

か。朝食はフランスパンのかたーいのを食べて……。

母　そして、コンコルド広場、凱旋門、ブローニユの森まで歩きました、二時間ぐらひ。

娘　それからオペラ通りを歩いて、午後三時ごろ、オルリー空港の近くのユー・スホテルへ着きました。

周郷　それは前もって予約かなにか……娘　いいえ、もう行きあたりばったり

です。たまたま船で一緒だった方がユー・スホテル案内の日本語版を持っていらして、それをうっさせていただいたのが役に立ちました。

母　どこへ行っても、二本指を立てて、「OK?」それでいいわけ。「OKね、なんていっちゃって……(突い)

周郷　ちょっと話がそれるけど、ユー・スホテルは千五百円ですか?

娘　宿泊費が千円、朝と夜の食費が五

百円、けっこうたっぶり、果物までついて、パンも食べ放題。シートも持って行ったんですけどいりませんでした。

ところが、スイスとオーストリーは、年齢制限があつてスイスは二十五歳未満、オーストリーは三十歳未満でした。

オーストリーの場合、母はあてはまらなかったんですけど、付き添いみたいな顔をしてね。(笑い)

母　でも平気なの。「親子」っていう

ことで、とても優遇していただきましたよ。出入りの度に、行つてらっしゃい、行つて来ますっていう感じ。

周郷　心細さ、緊張感、とまどつたわけですね。娘　そうです。一度にパーツと緊張がとれて、ああいう時の気持ちよさは特別でした。

周郷　日本ではちょっと経験できませ

んね。

母　そうそ、税関のところできえ、親子ってわかるとね。

娘　そう。ナホトカの税関が、恐い恐いって感じでしたんです。母が先に入ったのに、バスポートは私の方に入っていて、まごまごしていたら、その恐い

はずの税関のおばさんが、「ママ?」なんていって、「早く早く」といって私も一緒に入れてくれたりしてすっかり気分がほぐれちゃつた。

日本だったら、こんなに親子っていうのが大事にされるっていうのかしら、そういうことはないと思ひますね。どういうのかしら、どこでも「親子」っていう

ことだけで向こうの人がすごく親しくしてくれました。モスクワの人なんてごつくて、愛想がないんですけれど、ホテル

のフロントじゃなくて各階にいる人、その人なんかは、*Engelberg*、なんていって話しかけてくれたりして。

母 今でも、あの顔、目にうかびます。私は、親子というより双子のつもりで行ったのに……(笑い)

娘 兄弟よりも、夫婦よりも、親子を大切にしているのかしら。

母 気がおけない、疑いをもたなくていい二人っていうことかしら。それがおばあさん、紳士、若い人、園丁の小父さんでも誰でも話しかけてくるんです。

母 ソ連のホテルで、「コンニチワ」なんて、日本にいたことがあるとかいう人に「オクサマ」なんて話しかけられましたよ。

スイスへ

娘 さて、バリーからジュネーブへ行きました。夜行列車です。

母 ユースホテル泊と、夜行をチャンポンに使いました。必ず夜行が続かないように。夜行が二日続くとわれわれ、バ

テチャウから……。

娘 そうね、ゆうゆう寝られるんだけど、途中で起こされるから、国境を越えるたびに。

ジュネーブには、やはり朝七時ごろに着きました。ビールをちよつと飲んだところ、真赤になっちゃって、少しよいをさましてから教会をお訪ねしました。そしてそこでホテルを紹介していただきました。そこのおばあさんがとてもいい方で、ほつぺたにキスしていただいたり……。

母 そこに三泊して、そのおばあさんにさよならしたのが二十日でしょ、そして、ベルン、チューリッヒを遊びながら通過して、ザルツブルグに朝早く着いて、夕方にはウィーンに着いて、それからヒュッテルドルフのユースホテルに落ちつきました。

ハムブルグから帰途へ

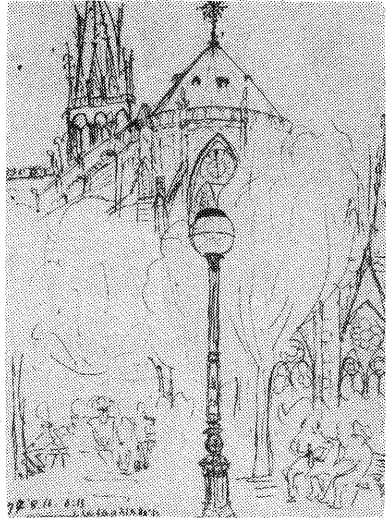
娘 それから、そこに二泊して、二十四日にハムブルグに着きました。お昼ごろ着いて、二十六日の晩、また夜行でコペンハーゲンへ行きました。

周郷 ハムブルグは知り合いのところへ泊ったわけですね。

娘 はい。二十七日の朝コペンハーゲン着、三時の飛行機でモスクワまで行って、モスクワ二泊、行きの逆のコースを行ったわけです。

ハバロフスクへ行く時のお月さま、それからモスクワの飛行機から市内への道で見た夕日、これがすばらしくきれいでした。稲むらっていうかしら、そういう所に日が落ち……。

周郷 親子二人旅のコースについては今聞きましたね。今度は、向こうでいたい、何を見て、何を考えたか、それは



ノートルダム寺院の裏庭

点でいいんです。線は終わったから…。

ノートルダム寺院の裏庭で

母 一番印象に残っているのは、ノートルダム寺院の裏の子どもの遊び場の風景です。夕方、寺院の鐘をききながら、私たちがベンチに腰かけて、スケッチでもしましょうかっていうような心境だったんです。たまたま娘の画いているのを見ましたら、子どもを一生懸命画いてい

るんです。白いワンピースの一歳ちょっとぐらいのお嬢ちゃんと、緑色のワンピースの二歳六ヵ月ぐらいのお嬢ちゃんと…それから少しお姉さんみたいな女の子が小さい子を遊ばせているのなんかを見てたわけね。あとは、あなた話してごらんなさい。

娘 そもそもこの旅行に私がどういう気持ちで出たかっていうと、いろいろなことが毎日々々同じことをしていると積

って行くし、出て行かないで入ってくるばかりになるような気がしたんです。いいことが入るばかりじゃなくて…。ですから、母は割合に子どもということを考えてみたいようですけれど、私はもう子どものことを全く抜きにして旅行をしてこよう、全部今までのことを、幼稚園のことも何も彼も捨てられたらどんなにいいだろう、かと思っただけなんです。

でもいざ行って見ると、やはり子どもは気になるし、大人も子どもも含めた、人間の動きとか、心の動きとかが目に入ってきたわけで、その一つがこのノートルダム寺院の裏の場面なんです。この寺院はやはりステンドグラスもきれいで、何しろヨーロッパで一番きれいな寺院でした。

そのうしろの公園で、ちょうど日が沈む前ぐらいの時間をひと休みしました。そしてスケッチをしていたら子どもたち

が砂場で遊んでいるのが目に入りまし
た。子どもたちはははだか、海水パンツ
つで、どうも砂は大理石のくずなかし
ら、非常に白くて固まらないらしく頭へ
かけたり袋に入れたり、そんなことをし
ていました。あとは穴をほるぐらい。

“遊んでいたスプーンのとりっこでけん
かが始まった”スケッチブックにメモし
てあります。何をいつてるかわからない
んですけれど、もちろん親はつきそって
来ているんですけれど、のんきにベンチに
すわっている。で、そのけんかも始まっ
て、自然に終わってしまった。その内に
六時半になってオレンジのパンツをはい
ている子の母親が帰ろうっていつてら
しいんです。ところが子どもは口をとが
らせて帰るのがいやだといっている。そ
れでも親はチャッチャッと洋服を着せ、
靴をはかせちゃうんです。仕度がすんで
しまふと素直に母親と一緒に帰って行き

ました。

それから、今まで一緒に遊んでいた子
どもたちの一人が帰ってしまった後、
七、八歳位のお姉さんが一人、幼稚園位
の男、女児四人が、公園に置いてあるい
すを運んできて、学校ごっこのようなこ
とを始めました。お姉さんがリーダーに
なつて向い合つてすわり、お話をした
り、一緒に歌をうたつたりしていまし
た。歌はとても自然に出てくるんです。
お姉さん先生の扱いはすばらしい、それ
以上に、聞き役の子どもの夢中になつて
聞いている姿はすばらしいものでした。
ちょっとあきてくるとお姉さんが“あそ
んでいらっしやい”なんていつたらし
く、パーと散つて、追いかけてこをした
り、砂場で遊んできた、また戻つてく
るとそのお姉さん先生は、みんなの体
についている砂を払つてあげたりして、ま
たお話等がはじまるんです。この子ども

たちの関係は、姉妹だけではないらしく
この場でできた集団のようでした。それ
を親は全く関係しないんです。それを見
て笑うわけではないし、ただあみ物をし
たり本を読んだりしてゐるんです。

母 かといつて注目していないわけじ
やないのね、心のどこかで見ていつて
いつのかしら。

娘 そこへ一歳ちょっと、やつと歩け
る位の女の子（以下Aとします）が乳母
車に赤ちゃんをのせたお父さんと一緒に
公園へやつてきました。Aは、その砂場
での子ども達のようすを見ながらお父さ
んとの間をいつたりきたりしていまし
た。そのうちだんだんお父さんとの距離
がはなれ、砂場に近づき、とうとう砂場
に入り込んでしまいました。そして一人
で砂いじりをして遊びはじめました。今
度はAより少し大きい二歳半位の女の子
（B）が乳母車にのつてやつてきて、一人

でボンとおりと、ペパーとパンツをぬいで茂みに入り、おしっこをして帰ってきました。そしてすぐに平気で砂場で一緒に遊んでいる。この二人は、前の子どもたちのように皆と遊んでいるのではなく、自分の回りの砂をさわっている程度の遊びをしていました。

もう一人、一人で遊んでいる三歳位の男児がいたんです。そのお母さんは割り合いに子どもにくっついて子どもと遊んでいたんです。ですから当然他の子どもとの関係はあまりないのです。そのお母さんがベンチにちょっと戻ったら、その男の子が他の子に意地悪をしたんです。するとそのお母さんはすぐに飛んできて、自分の子どものおしりをピンピンとたたきました。若いお母さんでした。そのお母さんがベンチに戻ったら、Bのお母さんが「子どもをそんなにたたいてはいけない」というようすしていました。

言葉はわからないし、聞こえないんですけれど、多分そういうことを言っているらしいのです。しつけの方法はともかく、他のお母さんに注意をすること、またされた方もほんとうに素直にきいていることはすばらしいことだとおもいました。

そのうちにBの乗ってきた乳母車にAが興味を持ったんです。乳母車のところへ走って行って、いろいろさわりました。するとBは自分の物をさわられるので、Aをどけようとしているんです。二人がとりっこをしていると、Bのお母さんがおもむろに出てきて、ほとんど何も言わずに、Aちゃんを乳母車にのせ、おもちやを持たせ、その乳母車を、Bとお母さんが押して歩きました。AもBもニコニコで、お母さんはそっと手とはなしてベンチに戻りました。Bはうれしくなってあっちこっち乳母車を押して

歩き、Aのお父さんのところまで連れて行ったりしていました。

母 とてもいい夕方でしたね。

迷っているフランスの教育

周郷 今の話聞いてると、ヨーロッパの、伝統的な、しつけはしてるんだけれど、ベタつかないしつけですね。そして徹底してるんだと思います。

だけど、それではいけない、今までのやり方を変えていこうとしています。しかし歴史的、伝統的な方がいいという人もある。ここのとこ、今フランスは迷ってるんです。

おしりをたたいたりすることでしつけをするという伝統を、かえていかなきゃならないんじゃないかって、教育制度の面でもフランスはとも迷ってるんですよ。今、小学校から上の方の教育っていうのは問題があるんです。学校へ入る人

ばかり多くて、先生にも悪い人がいたりして、先進国の悪さですね。しかし幼児教育だけはしっかりしたいものにしていこうという、考えをもっているらしいんです。

娘 ということは、変えていこうっていうことですか？

周郷 そうです。フランスでね、今一番いいことをやっているのは、(上の方は大変化の時代ですけれどね)一番信頼できるのは、幼児教育だっていうことを、去年フランスの奥さんから聞きました。で、そこにまた、問題もあるわけですから、そこにまた、問題もあるわけですからね。

娘 今の二人だとしたら、どっちが伝統的な？

周郷 おしりをたたたく方。

娘 たたく方がそうなんですか?! 私はそのじゃなくて逆かと思ってたんです。

周郷 絶対に子どもは甘やかしません。これはフランスばかりじゃなくてヨーロッパ全体の子ども育て方です。大人と同じようにうまい物は食わせない、そりゃ子どもはきびしく育てた方が学問をするのにいいという考え方です。

母 もう一人の緑のワンピースのお母さんも、甘やかしているのではなくて、またそこにきびしさはあると思いますよ。

周郷 そりゃそうです。

娘 口でいわないきびしさ、きびしさの意味が違ってくるのね。

周郷 親は親の生活をもって、何か子どもの方にいいよっていく、ということがないんですよ。じゃ、ほってるかっというとちゃんとしつけてる。

母 ちゃんとしてますね。態度で…。

小さい人に親切にしてあげるとか…。

周郷 ぼくも四年前、ノートルダムか

ら裏町へ行った時、子どもがすずめにパンくずをやっているところを見ました。そしたら三つぐらいの子がはだしではつてすずめごっこをやったの。そこへお母さんがでてきたと思ったら、パンパンておしりをたたいたの、まるでうさぎをつるすようにして…。

小さい時は、ともかく、公共の場でも家庭でも、我慢させるんです。退屈なところにも、親がすぐ退屈をまぎらせるようにとをしないの。退屈な勉強でもちゃんとしなきゃいけない、という実にしっかりした伝統なの。小さい時に、小さければ小さいほどキッチンとやらせて、親は親で生活をもっているんです。

娘 ハムブルクで特殊学校を見た時に、そのの先生のお子さんが、食べるものなんかでも、暖かいスープなんか食べたことがないっていうように質素なんです。全くぜいたくをしないで、それか

らちゃんとした家庭だったら、ドイツの人は子どもには黒パンしか食べさせない。それは、歯にいいということ、ぜいたくをしないという意味があるんです。

母　そういうところの教育者も信念があります。自分の子どもはほっておいても自然に育っていく。でもこの特殊学校の子たちは手を加えなければならぬ子たちだからって。本当にその仕事に打込んでいらっしやるんです。

周郷　日本の方は、大人が信念がないもんだから、子どもの方にすりよっていつちゃう。何か、子どものことばかり目についちやうのね。大人がシャンとしてなけりゃ子どもは育たない、当然ですね。

大人の生活を尊重する

娘　私の見たヨーロッパの、昔のきび

しい（おしりをぶつとかぶたないじゃなく）育て方、わがまま勝手は絶対できないですね。子どもですから、よその家へ行ったり外に出ればいやく物を食べたり、そういうことはあるみたいですけど。

周郷　多少あるだろうけど、五、六歳ごろまでに、チャンと隣人に対する礼儀なんかができていますね。去年ウィーンの辻さんの家に行った時、辻さんの子どもの友だちでビョルンという子がいるんです。その子が遊びに来てて、かなり広い家なんですけれど、ぼくのところへちゃんとあいさつにくるの。そしてぼくらがご飯を食べたりなんかしてる間、遊んでて、八時ごろかな、寝る合図でテレビでしずーかな音楽があるんです。日本では聞かれないような……。

もしたら、そのビョルンという子どもも帰ったろうと思つたら、ちゃんとぼ

くの所へあいさつに来ました。そういうふうにならなくて、大人に大人の生活をさせる、大人の生活を子どもも尊重してるんです。

幼稚園なんかでも、先生は庭で遊ぶ時はとても一生懸命、お座なりじゃなくやつています。でも部屋の中に入ると、日本の先生にくらべると、ちよつと親切でないみたいなの、ちよつと距離をおいて見るんです。じゃ手をかけないから幼稚園はきたないかっていうと、キチンとしてきれいな。卒業した子どもたちの写真がずーつとならんでたり、あるウィーンの幼稚園では子どもの足、かわいいでしょ？ それに絵具をつけて型をとった、それがおいてあったりしていかにも子どもを一人一人大事にしてるなっていう気がしました。でも口先では全然ベタつかないの、遠くから見ただけです。

娘 どちらかという和日本なんか、向こうがベタついてくるよりこちらがベタついてるんじゃないかっていう気がしませぬ。

周郷 本場にそうです。

娘 それに親もそうだし……。

周郷 親なんだから、当然しつけをして、世の中のじゃま物にならないようにうんときびしくしつけをした方がいいんです。人生っていうのは、粘り強さ、辛抱強さが必要なんですから……。大人がき然として生きていくことで、子どもはちゃんとしてきます。見ててもきれいなくらいですよ。あんな小さい子が、ちょっとときであいさつして、八時にちゃんと帰って行くのですから。

日本の幼稚園

娘 それこそまた幼稚園の話になっちゃいますけれど、幼稚園の先生自体、本

当は、子どもが先生によりかかってこなきゃいけないのに、逆に先生の方がよりかかって行っちゃる。

周郷 そうそう。

娘 これがなかったら自分の仕事がなくなっちゃうから……ただ自分の楽しみのために、自分はこういう信念をもってこういうことをやっていると、自分の行為を正当化するためだけの、そういう職業に変わりつつあるんじゃないかという不安……

周郷 小さい子どもをもっているマイホームにおちこんでいるお母さんもまた、子どもにベタついて、子どもを自分の手段として使っていますね。これじや、日本の先はどうなるのかわからないですよ。

何でもないことを、二人は、親子で見て来ましたがね。やっぱり日本の町の中の親子から家庭を想像するのね。親た

ちがき然としたものをもたないで、子どもを核にして、子どもを利用して親のかくされた野望をとげようみたいな、すっきりとしないものが考えられますね。

娘 そういふもの、気持ちも、全部とっちゃっても親である、というようにそれが本当の親でしよう？

周郷 そうですよ。

娘 とったところで本当のものを生み出すには、どうしたらいいかっていうことは、私もわからないけれど……。

ウィーンの森

母 公園なんかで、上っちゃいけないところへ上らせたり、そういう勝手気ままなことをやらせている、っていうのが日本人みたいですよ。

周郷 向こうの子はやらないですね。

娘 それでいて、自由じゃないかっていうとそうじゃないですね。そこでウィ

ーンの森の話になるんですけど……。

朝八時ごろウィーンの近く、ヒュッテルドルフにあるユース・ホステルを出発しました。食糧は、前の日とその朝残しておいた少々のパンだけを持って、……三十分ほど歩いて動物園に着きました。

そこに門番みたいな小父さんがいて、言葉がわからないんですけど、いくらですかっていうようなことをいったら(笑い)どうぞって言うようすで、ははあこりゃ無料なんだなって入りました。

母 そう、大体どこでも無料でしたね。

娘 そうしたらそこへ幼稚園から小学校中学校ぐらいまでの一団がやってきました。#遠足かしら、なんていいながら私たちは逆の方向へ歩いて行きました。前を、六十ぐらいのおじいさんが二人、リュックをしょって、向こうの民族衣装みたいな短かいズボンにハイソックスと

いうようなかっこうで歩いていました。

ところがそのおじいさんたちが止まったところにいのししがいるんです。リュックの中からパンを出して上げてるんです。私たちも上げたかったですけど、なけなしのパンでしょ？ でも決心して上げたところが少しのパンなので見むきもしないんです。たくさん食べるくせがついているもんで、何しろすごい音を立てて食べるんです。

そしてひとことふたこと話してまたそのおじいさんたちについて行きました。

周郷 ドイツ語できなくても？

母 ええ、何ていうのかしら、心が話しちゃうんです。

娘 どんどん森の中へ行くと、朝早かったせいもあって、森はとも深くて、この森が本当のウィーンの森だということをおとから聞きました。観光地化したウィーンの森は本当にチャチでした。

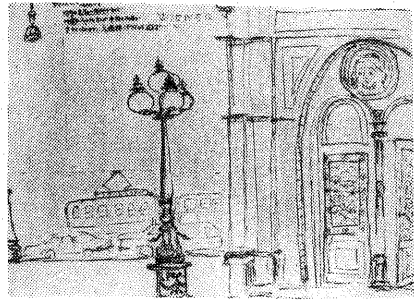
母 ここは直径五キロぐらいあるんです。広い広い森です。

娘 マロニエが多いんですけど、もう空気が緑色になっちゃうようでした。まっ暗な森の中を、その二人のおじいさんと、あと一組の家族連れにあっさり、どんどん歩いて行きました。

動物園の入口にはしか、りす、うさぎとか、いろいろな動物がいるように書いてあったんですけど、いのししにしか会いませんでした。それも全くの放し飼いです。

子どもとの出会い

娘 その内に二人だけになっちゃって、お屋近くなつたんです。八時ごろからずっと歩いたわけです。どこの町を歩くのでも、汽車に乗る時間、帰り道の時間を考えて何時まで歩けるか行きとかえりの時間を計算して歩きます。大体いつ



ウィーンの町かどで

もこのことは考えて行動しました。帰り
は、同じ道はいやだからと入口の方へ歩
てい行ったらひらけたところがあつて、
そこに、入口で会った子どもたちがいた
んです。お花がたくさん咲いていて、棒
をもってチャンバラごっこかしら……し
てました。実に自由！ 木に登ったり、
上着の袖をダランとさせてマントみたい
にして、危いですよ、なんていう人、い
ないんです。

周郷 こういう場面を考えるとね、日
本の子どもだったら遊べないんですよ。

娘 私たちはやはり本当に子どもに会
うってということが気負いではなく、すつ
かりうれしくなりました。ずっと見てま
したら女の子のグループがいて、そこに
男の先生と女の先生がいらっしやいまし
た。見ると、あやとりをしてるんです。

少し近くにいってみると、日本のと同じ
ようだったんです。そして文福茶釜にな
ったらとれない子が多いんです。それを
私がひょっととってあげると、みんなび
っくりして、もう他人じゃなくなっちゃ
ったんです。言葉なんかいらないうん
です。"あらとれたわ"とかこっちは日本
語でいうし、向こうはドイツ語なんです
けどけっこう通じるんです。

その内に自然発声で、歌を歌ってくれ
ました。それから"今テープをとってく
るから待って"なんて全部日本語でいっ

て、録音しました。その歌がとめどもな
く出てくるわけ。昔から歌いつがれてい
て、人が寄ればいつでも歌う歌っていう
のがあるんじゃないかしら。

周郷 そしていつも口ずさんでいるか
ら、声の出し方があまり乱暴じゃないの
ね。きれいな音で歌ったでしょ？

娘 どっちかっていえば音痴なんで
す。別に上手じゃないの。でも歌を歌い
ますって力んでいるんじゃないんです。
言葉、言葉に節がついているだけ。

周郷 そうなんです。音楽っていうの
は言葉なんだな。日本では音楽っていう
と特別なものなんです。

母 何か、心をあなたに上げますって
いうような……何ともいえないかわい
いんです。人種が違うなんてことは問題じ
やないんです。人の顔を見て、一生懸命
歌ってくれたんです。

娘 そして、先生が帰りましようって

おっしゃると、最初は帰りたくないとか文句いつてるんですけれど、その内にサーッと並んじやうんです。そういう時になるとパッと並ぶんです。そしたら、一人の子がスッときて、本当に何げなく私に花束をプレゼントしてくれたんです。

そしてまた歌が始まって、歌いながら帰って行つたんです。そしてそこにもいのししがいました。本当に、生活、自然が流れているっていう感じでした。

周郷 今の話、聞いてるとね。日本ていうのは、何か口ばかりうまいのね。やっぱりいいしつけがあるんで、帰ろうっていうえばサッと並んで、花束を持ってくる、こういう仕事も全部、やっぱり人間が生きてるかぎりには、生きるというところに味わいをつけてくれるものです。そういうものが、あるのね。日本はそういうものを全部捨てて言葉だけで間に合わせようとしてる。

母 野の花をつんで、くれる、それもその子どもの言葉ですな。

娘 自分の気持ちを行為であらわす、これは人間がもともともっているんだと思ふんです。

ウィーンの子ども

今度はウィーンの話になるんですけれど……小さい子が親から離れていろいろな人のところへ遊びに行つちゃうという場面があつたんです。そこが日本だったら、危いですよ、迷惑になりますよって親がついてますな。

母 そう、ヨハン・シュトラウスの像のところね。音楽をききながら。

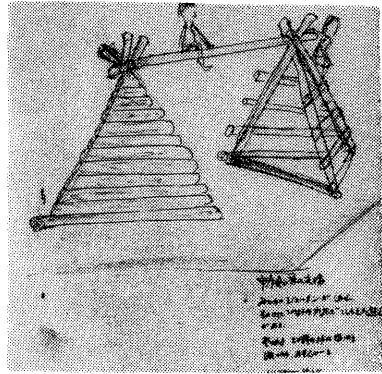
娘 そういうふうに、自分の気持ちを素直に出すっていうところが小さい時からあるんですね。そしてまた大人もよその子を膝にのせたり、そういう行為をうけ入れてくれるの。

母 皆、知らない人同志がヨチヨチ歩きの子を抱っこしたりお話したり、また他の子がくればその子にもそうする。いわれないで仲よくしているっていう感じですね。

娘 よその子の本をひたたくつきて、知らない大人の人の膝にチョコンと のって読んでもらったり、読んでもらえばまた返しに行くんです。そこで、いけませんなんていわないの。返してらっしゃいと行ったかもしれないけれど、ともかくあせらない。誰とでも口がきけるんです。だから大きくなっても私たち日本人にも平気で話しかけてくるんじゃないかしら。

母 私たちは外国の人に対してそんなに卒直に行動できないですね。けっこう関心はあるのに……

娘 あるんでしょうね。島国の……
周郷 閉鎖された、差別感、卑屈な気



持ちがありますね。ヨーロッパはいろんな人種がいるんで差別なんかしてたらおもしろくないんですね。

母 自分で心を閉じたってつまらないし、自分のもってしんものはこれだけという気持ちであれば、それだけでつきあえばいいのよね。

娘 子どもに関係したことでは、ウィーンのラート・ハウスの前の公園は、子どものために開放されているんです。コ

ンクリートのところに緑色のじゅうたんが敷いてあって、百帖じきぐらいの広さで、そこに木のやぐらのようなのが組んであって、そこで子どもたちが遊んでました。

やはり国のそういうことに対する関心意識というのかしら、とても羨しいと思いました。そして一方はそのやぐらも何もないんです。子どもたちが勝手にボール投げをしても、何をしてもいいんです。日本だったら、たとえば皇居前の広場に、緑のじゅうたんをザッと敷いて、そういう広い所を自由に利用できるっていうような……コンクリートになっちゃったらこういうじゅうたんを敷くとか、そういう思いつきがすばらしいと思いました。

母 おまけにそのラート・ハウスっていうのは昔の宮殿でしょ？ その前が子どもどもの広場っていうのがまことにすばら

しいと思いました。

それから、ほら、ヒュッテルドルフの……

娘 そうそ、ヒュッテルドルフのユース・ホステルの広い庭へ、近所の子がモルモットを四匹ぐらいつれて遊びに来てたんです。

母 その女の子が、モルモットをだっこしてかわいがってる、それがまたおもしろいの。

娘 枯葉をたくさん集めて来てはかけて上げたり何だりして……

母 小学校の低学年ぐらいでしようか。日本だったらそろそろ塾へ行ったりするころですね。でもそれよりこうやって動物をかわいがる心を養った方がどんなにいいか……勉強ばかりしてどうなるんでしょ。

周郷 教育の基本的なことが抜けてるんだな。

娘 もっと離れていいのね、親と子と。

母 くつつかなきゃならない時に離れてね。

周郷 離れて、そして目に見えないところで親としてなすべきことを、き然としてやる、日本ではそれをしてないですね。

娘 同じヒュッテルドルフで、夜散歩に出たら、大体どこの家でも、外にベンチを出して、夕食後それぞれが本を読んだり新聞を読んだりの時間をもっているの。もちろん散歩はどここの国でも見られるし、別に子どもに干渉なんかしないで、大人も自分の生活を楽しんでるって感じがしました。

ヒュッテルドルフでは、夜またユースを抜け出してね、昼に行った動物園と反対の方へ行きました。花の咲き乱れる道をふみわけふみわけ小高い山に登ってウ

イーンの町の灯を見ました。花がいつぱいで歩いていてもふんじゃいそうでかわいそうなくらい。

母 町のすぐそばに、こんなきれいな山があるんです。

出会い

母 汽車で、国際平和ということ勉強している日本の青年に会いました。塩谷さんでいいましたっけ、奥さまはスエーデンの方ですって。その奥さまが、日本の教育について、日本では教育、それも最高の教育をうけて、お金持になつて、偉くなつて、そういうことを目的にしているけれど、私はおかしいと思うっておっしゃいました。そんなことでなく人間と人間が国境を越えて仲よくするためにきたんだっていったら、とても喜んで下さって、がんばって下さいって、割合に上手な日本語ではげまして下さいま

した。

娘 もう一人、スエーデンの新聞記者という方にも会いました。でも、足が短くて病氣なんです。体じゅう傷だらけなんですって、ちょっと見るとかわそうな感じがするですけど、公害とか、そういう問題を主に取材してるんですって。

それで日本人の奥さまなの。これからチエコがどこかへいらっしやるということでした。

友情

周郷 ま、そういう工合に二人は、向こうで、いろんな人に会つて子どもとも遊んで、日本では味わえない友情を味わいました。この友情の中身というのも出てましたね。

娘 その、ベタつかない友情、ですね。

ジュネーブのインターナショナルの小

母さんやら、ピーター小父さんやら……
やっぱり友情のひとつですね。何か商売
じゃなくて、本当に「またきて下さい」
っていう感じなんです。そして、その国
をとても愛してるの、だから、そこに愛
してる私たちにまた来てほしい、そうい
う感じ。

周郷 そうそうそう。自分の国を愛し
てますね、自然やなんか。「私の国を私
は大好きだ」っていう人、日本にはあま
りないでしょ、だからそこへきてくれ
た人に非常に友情を感じるわけなんです。
そのスイスのホテルは教会の紹介？

娘 ええ。その教会っていうのが、前
の日に大体時間を見たつもりで礼拝に出
るつもりで行ったんです。そうしたらど
うぞどうぞって中へ入れて下さって、皆
がお茶を飲んでるんです。そこでコーヒ
ーをご馳走になって、いつになったら礼
拝が始まるのかなって待っている内に皆

がバイバイって帰って行っちゃって……
(笑い) 結局私たちが時間を間違えた
ということなんです。

母 でも、おいしいコーヒーでした
よ、とっても!!

周郷 やっぱり友情があるとコーヒー
の味も違うんですよ。

娘 そう。そこでも初めはよそ者
っていう感じで、汗は出てくるし大変だ
ったんですけれど、だんだんと言葉を
かけて下さったりしてる内にその親切
が、こう身にしみるんです。

母 あんなおいしいコーヒーは初
めてでしたわ。

娘 あら、私はあんまり味がしな
かったわ。飲んじゃってからあとね、
気持ちがほぐれたのは……。(笑い)

母 中に鎌倉へ行ったことがある
といふ中国の方もいらっしやいました。

周郷 どうして、日本の人間関係とか

友情とかっていうものは、こんなに冷
えちゃったんでしょう。ぼく、ヨーロッ
パのことは、サラッとしていて、いつ
思いついても楽しいという友情が感
じられるんです。これはどうい
うわけだろう。

母 何か、日本の親切っていう
とお金とか物とかがからんで行
ったり来たりしちゃうたり……

周郷 人のつきあいの中に、学
歴とかお金とか、うしろにすぐくっ
ついてるんです。

娘 イギリスで日本人の男性に
会ったんです。その方はとても親切
だしいい話をたくさんして下さって、
最後には電話のかけ方まで教えて下
さいました。そしてタクシーにも乗
せて下さって、それでもお互いに名
も告げずに別れたの。何かさうい
うことが、日本だったらできない
気がします。ありがとうございます
って手紙一本書くわけじゃないけれ
ど

も、私の心の中にはその方の親切が、ず
っと生きているわけです。手紙一本で
は解決できないことだと思えます。

ピーター小父さん

こういう出会いっていうんですか、あ
っちこっちでありました。ピーター小父
さんもそうです。ザルツブルグの公園で
植木のせん定をした小父さんなん
です。

周郷 ピーターっていう名前は何でわ
かったの？

母 向こうからいつてくれたんです。
それで「エブリデイ こういうことをや
ってる」っていつて、私は「大変ねー」
なんていつちやって……（笑い）

娘 それも、こっちから話しかけたわ
けじゃなくて、向こうから話しかけてき
たんです。日本から来たのかとか、東京
からきたのかとか。

母 何か、手をとめたなって思った
ら、チョコチョコって私たちの方に来て
……

周郷 その、お母さんと娘さんの旅行
って……羨しいですね。向こうの人には
それがわかるわけですよ。それも「言
葉」なんです。口だけじゃないです。人
間の関係っていうのは……。

母 親子で、おまけに私たちはきれい
なふうをして気取ってなかったから。

娘 それで、「あら大変ね、きれいに
刈れて」なんていうのは私たち二人で日
本語で話してたんです。そしたら話しか
けてきたんです。日本語がわかるわけ
もないのに。何かこう、通じるんでしょ
うね。

そして、花を二本折ってくれて……。
それから、「ザルツブルグは、とっても
いい町だから、泊らないで行くのは惜し
い」ってしきりにいうんです。でも私た

ちはウィーンに泊らないとあとのことも
あつてだめなんだっていうと、「それな
ら、また、きつとまたきなさい」ってい
うんです。

まとめ

周郷 お金はとっても安く行ってきた
んだって？

母 そうなんです。

周郷 それ、ききたいな、最後に。

母 結局、コペンハーゲンまでが三十
万ちょつと、往復で。それからそのあと
ユーレイルパスっていうのが四万円ちょ
つとです。ですから三十六万円足らずを
日本で用意して、向こうはユース・ホス
テルは安いし、ユースホステル・夜行と
いう形を使いました。

周郷 ホテルだって、パリなんかは安
いところ、ありますよ。
フレムデン・チンメル（ペンション）

……なんていうの、自炊できるの、方々
にありますよ。部屋貸し。

娘 途中で出会った日本の女の方もお
っしやってました。ユース・ホステルよ
り家庭的でいいって……。

そして私たちは、機内食を食べないで
とっておいたり、朝のパンを節約してお
昼に食べたり……。でもヨーロッパは資
素ですね。変な話ですけど、トイレの
紙、日本みたいに白いのはありませんで
した。別に資源はないわけじゃないと思
うんですけど……。パリの人たちが地
味な服を着て歩いてるっていうのもそう
だし……。

周郷 スイスなんかでもそうですよ。
ぜいたくな時計は自分の国の人を買わな
いの。じゃあ、このへんでまとめまし
うか。

母 はい。一番印象の深かったのは、
友情と、新鮮な果物と、ウィーンの森、

本当に野性味のある果物……。

食物でも資素ですね。極端に言えば、
命がつかなければならない、それよりもふん
気を大切にしていますね。

周郷 果物のことについていえば、日
本は果物も全部商品にして、人をだます
ために店頭においているんです。虫が食
ってるような果物がおいしいのであつて
そういうのを向こうの人は食べてるんで
す。そして全部、食っちゃうんです。芯
まで……。種まで食べちゃうんじゃない
い？ 日本は、もう少し着実な食物が必
要です。―そうして着実な生活と教育
が。

娘 食物ばかりじゃなくて、結局、あ
る物を上手に使うということですよ。子ど
もだつてそうですよ、あるものを育てて
いけばいいのに……。

(七四・九・二三)

幼児の教育 第七十四巻 第一号

一月号 © 定価二〇〇円

昭和四十九年十二月二十五日印刷

昭和五十年一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

©本誌御購読についての御注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします

フレーベル館

現代幼児教育研究会開催について

フレーベル館現代幼児教育研究会は、去る昭和40年に発足以来、幼児教育に携わる全国の先生方に親しまれながら発展してまいりました。

今年度は、10年目を迎えるに当たり、先にご案内申し上げました通り、研究会の運営、内容等について再検討を加え、できるだけ広く先生方に参加していただくよう、従来之年4か所の開催を改め、全国各地において、年間15か所で開催する計画を立て、更に、内容的には実践的なものを主体として現在までに11か所で盛会裡に実施いたしてまいりました。今後、2月まで引き続き下記の通り4か所で実施いたすよう計画いたしております。先生方の一層のご指導、ご協力を賜りますようご案内申し上げます。

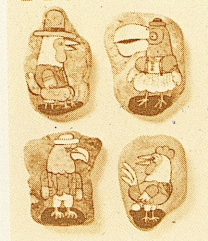
開催月	開催地
1月	藤沢市
2月	前橋市
2月	金沢市
2月	福山市

講師 宝仙学園短期大学講師 ^{たち}館 ^{べに}紅先生
内容 子どもにとって絵本とは何か
—その役割・選び方・与え方—

フレーベル館現代幼児教育研究会事務局
〒101 東京都千代田区神田小川町3の1 TEL (03) 292-7781(代)

50年度新学期用品のワーク類は 更に内容を充実しました。

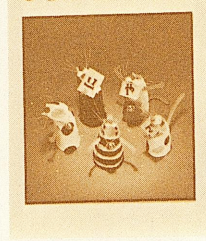
キンダーワーク 1



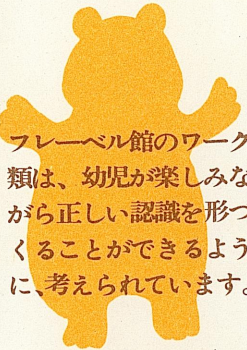
キンダーワーク 2



ひらがなとすじ

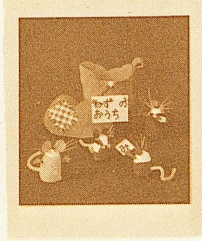


たのしいことば 1

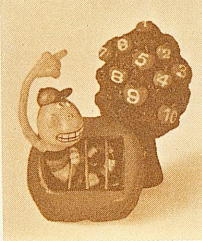


フレーベル館のワーク類は、幼児が楽しみながら正しい認識を形づくることのできるように、考えられています。

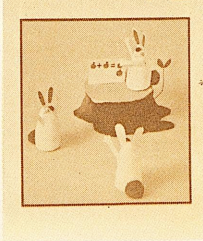
たのしいことば 2



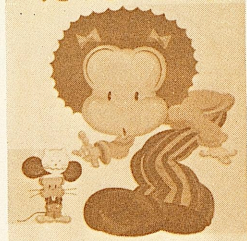
たのしいかず 1



たのしいかず 2



たのしいワーク



くわしくは、フレーベル館代理店・支社・支店・営業所・本社営業課 TEL 東京 (03) 292-7781(代) にお問い合わせください。

フレーベル館